

SKI Instructor of JAPAN



# INSTRUCTOR 第30号

日本スキー指導者協会会報

2014年10月 1日発行



創立 3 0 周年記念

特集



# § 目 次 §

ごあいさつ	日本スキー指導者協会 会長	坂本祐之輔	1
祝 辞	公益財団法人全日本スキー連盟 会長	鈴木 洋一	2
	I V S I (国際スノースポーツ指導者連盟) 副会長	福岡 孝純	3
	日本スキー指導者協会 名誉会長	菅 秀文	4
	日本スキー指導者協会 特別顧問	丸山 庄司	5
	日本スキー指導者協会 顧問	林 権一	6
	NPO東京都スキー指導者協会 会長	山崎 一正	8
	日本スキー指導者協会 副会長	渡辺 忍	9
	福島県スキー指導員会 副会長	白根 一英	11
忘れ得ぬ人	阿部元副会長を偲んで	水島 秀夫	13
謝 辞	日本スキー指導者協会 理事長	水島 秀夫	14
資料編			
	年表		15
	歴代役員		16
	総会と主な審議事項		18
	I N S T R U C T O R No. 18-No. 29主なコンテンツ		20
	創立から2014年度の出来事・会議・行事（年表）		21
	写真記録 会議関係		24
	写真記録 行事関係		25
各県報告			
	北海道		26
	岩手県		27
	宮城県		28
	栃木県		29
	埼玉県		29
	千葉県		30
	東京都		31
	神奈川県		32
	平成27年度第1回理事会議事録		33
	平成27年度総会議事録		33
	平成26年度事業別概況報告		36
	平成26年度決算報告		36
	平成27年度事業計画		37
	平成27年度本会計予算		37
	第20回S. I. J. 親睦ゴルフ大会実施報告書		38
	第13回みんなで行こうスキー大学実施報告書		39
	S. I. J. 懇親スキーフェスティバル（白馬）実施報告書		40
	日本スキー指導者協会規約		41
	役員名簿(2013.6～2015.5)		44
	事務局だより		45
	関係団体一覧		46

創立30周年を迎えて

ごあいさつ



日本スキー指導者協会  
会長 坂本 祐之輔

本年はロシアのソチにおいて冬季五輪が開催されました。日本のメダルは金1、銀4、銅3の計8個と、1998年の長野冬季オリンピックに次ぎ海外の冬季五輪では最多でした。

五輪出場7回目の葛西紀明選手は41歳、最年少の平野歩夢選手は15歳での活躍。そしてフィギアスケート浅田真央選手の素晴らしいフリーの演技。すべての選手が国民に夢と感動、勇気と誇りを与えてくれました。

その後4月25日、首相官邸においてソチオリンピック・パラリンピックで活躍された選手の皆さんに、安倍晋三内閣総理大臣から表彰が行われました。式典では総理挨拶後、選手に盾が贈呈され、記念撮影後には総理との懇談会も行われました。また、7月16日には、皇居「春秋の間」において、「ソチオリンピック及びパラリンピック茶会」が開かれました。竹田恆和JOC会長、橋本聖子選手団団長をはじめ葛西紀明選手・羽生結弦選手など選手の皆さんが出席、15時には天皇皇后両陛下がお出ましとなり、続いて皇室の方々がお見えになりました。選手の皆さんと親しくお話しをされていました。私も共に出席をさせていただきました。

ときあたかも、本年は日本スキー指導者協会創立30周年を迎えます。当協会が長年にわたり我が国スキースポーツの普及振興に寄与し、着実な発展を遂げてこられたのも、ひとえに田英夫前会長をはじめ歴代会長・役員・会員の皆様の、たゆまぬご努力のたまものと心から感謝申し上げ、深く敬意を表する次第です。

今、日本のスキー環境を取り巻く状況は、地球温暖化・経済の悪化・少子化と非常に厳しいものがありますが今こそ、地域に根ざした活動を着実にを行い、子供たちの健全育成をはじめ生涯スポーツの普及振興に力を注いでいかなければならないと考えます。

私たちの社会は、体を動かし、考え、遊び、仲間と交流する人間本来の姿に帰り、個人の健康や生きがい、心の豊かさが実感できる生活が求められています。スキースポーツはこれらの要求にこたえられる活動であり、健康と心の豊かさを取り戻し、生活を魅力あるものとしてくれます。

30周年を契機として日本スキー指導者協会がさらなる発展を遂げられますとともに、スキー指導者の皆様の限りないご活躍をご祈念申し上げご挨拶いたします。

## 祝 辞



公益財団法人 全日本スキー連盟  
会長 鈴木 洋一

日本スキー指導者協会がこの度、創立30周年を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。

日本スキー指導者協会は、時まさに国民総スキーヤーともいえる、空前のスキーブームで日本国中が沸いていました昭和57年、32名の発起人によって発足されました。以来、今日まで30年にわたり一般スキーの普及・振興、事業の充実に努めてこられました歴代役員の方々、関係者の皆様のご努力に対し敬意を表します。

日本のスキー発祥は、1911年、日本に赴任したオーストリア・ハンガリー帝国の武人でスキーの名手であった、テオドール・フォン・エドレル・レルヒ少佐によって伝えられ、それが日本におけるスキー事始めとなっております。このレルヒ少佐のスキー指導が行われてから100年を経過、日本のスキー界が新たな100年へ向けて歩みだしたこのタイミングに30周年を迎えられたことは、まことに喜ばしいエポックでもあります。

現在、社会全体が少子高齢化、情報化、そして楽しみの多様化などスノースポーツを取り巻く環境は厳しいものがあります。このような著しく変化する環境の中、スキー活性化を図る上でも日本スキー指導者協会の役割は大きいものがあります。

今後とも、貴協会におかれましては、生涯スポーツとしてのスキーを、さらに拡大発展のためご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

おわりに、30周年という節目を契機として、日本スキー指導者協会の益々の発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

## 三十周年に寄せて

IVSI (国際スノースポーツ指導者連盟)  
副会長 福岡 孝純

スポーツは“結びつけ命を与える”といわれるが、その根源は遊びである。遊びにより集い、祭らうこと特に祈りをこめて舞うことは人間の原風景といわれる。“宇宙そのものが揺らぎ、ファジーの特性を有している”。ビッグバン以来、物質の形成や生命の進化には遊びが深く関与しているのである。つまり、生命体にとっても原衝動といって良いだろう。スキーはスポーツの中でも、時に際立って魅力のあるものである。ノルウェーの極地探検家、海洋学者として知られるフィリチョフ・ナンセンは「あらゆるスポーツの中でその王者の名に値するスポーツがあるとすれば、それはスキーをおいて他にない。…」と述べている。スキーの歴史は有史以前の紀元前数千年にもさかのぼるが、ナンセンは、北方民族の持っていた宝物ともいえるスキーを、初めて中央ヨーロッパの人々に紹介したのである。それまでこれらの人々は、ゲルマンの文化を北方の蛮族のものとして蔑視していたのはまぎれもない事実である。当のゲルマン人もギリシアローマの文化に心を奪われていて、北の文化については全くといって良いほど省みなかった。

スキーがナンセンの影響を受けたマチアス・ツダルスキーによって中欧に広がりつつある時、ようやく哲学者のフリードリッヒ・ニーチェは身体性の重要性から超人の哲学を説き、リヒャルト・ワーグナーはオペラにより古代ゲルマンの本質へとその核心に迫った。ワーグナーにより北欧の神話、ゲルマンの神話は甦った。ヴァイキングのスピリットはようやく陽の目をみたのである。ゲルマンの主神オーディンは、「我自らを、我自らに捧げる」ことを信念とした。これこそ現代のスキースピリットに継承されているものである。わが国にスキーは徒手空拳では、大自然に勝てないことを説明した八甲田山死の行軍の教訓によりようやくスキーへの関心が高まり、1911年のレルヒ少佐のレッスンに結びついたのである。レルヒ少佐の通訳をした陸軍近衛連隊の山口十八少佐を母方の祖父、そして日本に近代オーストリアスキー(バインシュピール技術)をクルッケンハウザー教授とともに導入した福岡孝行を父にもつ私は、このスキーの赤い糸を継承することが今国民の活力が枯渇がちの日本にとっていかに大切であるかを痛感し、自らの力不足を悲しむ日々である。

温故知新というが、この日本スキー指導者協会にはその前身である指導員会時代から、真のスキー(いわゆるシーラウフェン)を求めて柴田信一先生、藤巻文司先生、中沢清先生、大熊勝朗先生、松浦益司郎先生、田英夫先生等など幾多の大先達の筆舌に尽くせない努力の積み重ねがある。今回の30周年を一つの節目として心よりお祝い申し上げるとともに、願わくばこの協会がスキーの赤い糸をしっかりと保持、継承されんことを心より願うものであります。



## 温 故 知 創



日本スキー指導者協会  
名誉会長 菅 秀文

この題名は平沢文雄さんがスキー研究家、スキー指導者としての自分に課した指針です。日本を含むスキー後進国はスキーの技法、技術に神経質すぎる傾向があります。

スキーの運動力学の一面のみを追求して、動く運動体のルーツ的力学を忘却している向きがあるようです。スキー先進国の歴史的影響を一元的に踏襲しているものもあるようです。スキー運動は自然への対応としてもっと自由奔放でありたいものです。

インタースキーの理事になって、世界のスキー技術の多種多様性を感興しました。この多様性から1973年、FSSのJ、ジョンストン氏（FIS、FSS委員長）とそのチームを招き、その奔放性と豪快さを知り、'74年にSAJに導入、組織化しました。

また'79年に世界のスキー技法と日本のものの差異をみる為に日本スキー技術選手権を創設開催しました。多種多様な技法、技術をみて一驚したものです。国籍、プロ、アマを問わない大会です。欧米から7カ国が参加。ワールドカップのプレイヤーや女子ではオリンピック優勝者（ナンシー・グリーン）が参加してくれました。

彼らは素晴らしい技術でのスキー操作をみせてくれました。

そしてその大会から学んだ一つのメソッドを試行して'88年のセクステン、インタースキー（伊）の大会で菅と平沢がヴェアリアブルスキーイングを世界に提案しました。

自然に対応するスキーイングは、ヴェアリアブルでなければならないと思います。これからの知創としてFSSのバレー操作やムルメル・ターンを修得し、一般スキーヤーにスキーの快感を指導する未来性をもって温故知創を探求すべきでしょう。

（元）国際スキー指導連盟 理事  
FIS指導部 理事

スキー指導者は、  
スキーの素晴らしさを  
「教え、導く」伝道者でありたい



日本スキー指導者協会  
特別顧問 丸山 庄司

3年前、東京お台場で「東京スノーワールド・イン・お台場」のイベントを日本スキー発祥100周年委員会と東京都が共催しました。

3日間で入場者5万300人余を数え大盛況で、東京都は子供達にスポーツを奨励しているが、唯一東京都で出来ないのが、雪の中のスポーツだから、というのが共催理由でした。

雪の広場で夢中になって、雪だるまを作ったり、雪と戯れる子供たち、周りではこやかに眺める親の姿、こんなに子供たちを虜にしてくれるとは、雪国生まれの私には考えられない風景で、この子供たちを冬の広い雪原でのびのびと遊ばせてやりたい。スキーやスノーボードの楽しさを体験させてやりたいと思ったものです。

さて、SAJのスキー指導者の中には、スキークラブに所属して活動している方や、スキー学校に所属して活動など多くの方がいます。その指導者は、雪のない都会育ちの方から、雪国生まれの方までいて、自然環境が違うところからスキーを始めて、指導者の資格を得て今は一緒に活動しているのです。

私はスキーを始めたきっかけはと聞かれると、返事に困ります。気が付いたらゴム長靴に板切れをつけて遊んでいた。スキーは面白いと気付いたのはずっと後のことでした。都会で生まれた指導員の方はどうでしょうか？。親や先輩に連れてってもらったとか、私とは違ったスタートがあったと思います。それぞれの環境の中ではじめたスキー、そのきっかけは、のめり込ませたのは、その心理状態は当事者のみがわかることです。

近年、スキー離れといわれますが、そんな中で、雪国育ちも都会育ちの指導員も、それぞれ生まれた環境と、スキーを始めたころを振り返りスキーヤーの掘り起こしと育成の参考にしたらと思うのですが。

さて、スキー指導者はスキーの素晴らしさを、「教え、導く」伝道者でありたいと私は思っています。今までスキー場の中でスケールの小さい「教える」という色の濃さがあったように思うのです。

スキーは自然の中のもの、雪との戯れから始まり、ゲレンデ狭ましと思う存分滑り込んだり、仲間とのトレースでの滑走の楽しさ、コブや深雪への挑戦。ポールくぐりは、草大会やマスターズ大会にもつながり、山岳スキーツアーなど、夢に向かって進んで欲しいものです。

そのためのスキー技術の習得は欠かせないものです。技術の向上と比例して楽しみ方のスケールが大きくなるからです。指導者はそんな大きな目標に向かうために、技術の習得の手助けは大事なことです。よき指導者とは指導中に「あーそう現象」（滑りの中で、あーそうか、先生の言うことが分かったと感じさせたとき）を数多く体験させることです。滑りの中でそれを実感させたときは、上達のヒントをつかんで一歩前進したときです。そして、時々休憩して周囲の景色を眺めながら、自然の中でスキーをしていることを実感させることも、大事なことです。先に述べたさまざまなスキーの楽しみつなげるのです。白一面の大自然の中でのスキーで「自然との対話」の言葉を理解できるよう「教え導く」ことが指導者のつとめと思うのです。

## 日指30年に沿えて

日本スキー指導者協会  
顧問 林 権一

福岡孝純さんから、今年、父の30年祭になり白馬で開催いたします。と連絡でお伺いしたのは平成22年であったろうか・・・。

所用も有り日帰りとして決めて、以前にも利用した新幹線で長野駅から白馬へ向かうバスの旅。バスは千曲川に合流する裾花川に沿って西へと進み、小川村を過ぎると突然白銀を抱いた白馬の山々が現れ青空に映えて何時見ても美しい。

11時半過ぎ白馬バス駅に着き早速対岳館の丸山庄司氏を訪ねる。庄司さんとは古い付き合いでまだ対岳館ができる前、日本アルペンSC会長坂野チロさんと訪れ、4月に兎平でクラブのバッジテストを行ったことがある。

その時の前走は現東京都スキー連盟副会長全日本スキー連盟理事の増田千春氏が確か19歳のころであったと記憶している。

話がそれたが庄司さんは「林さん」未だのお昼と一緒に・・・と近くの店に行き先ずは献盃。

福岡先生の30年祭は午後3時頃からということで多用な庄司さんは先に戻られたが、私は時間もありゆっくりと・・・のあと久方ぶりに福岡先生の遺品が飾られてある記念館を訪れた。故先生が召された衣品等が展示されている家具類はご依頼をうけ東京の優れたアート工房で製作し、白馬へ搬入し飾り付けも私共で行ったもので懐かしい。

30年祭は地元の方々をはじめ著名なスキー関係者が参集されて、故福岡孝行先生をたたえる数々のご挨拶から始まり、映像・スライドも数多く投影され、あちこちで談論の花が咲いていた。

時間は経過した。私もそろそろ帰る頃と思っていた折。

「東京から見えたという方からご挨拶を」で、現東京都スキー指導者協会山崎会長が指名されたが、山崎会長は私の所に来て「林」さんからと依頼された。

私は中央に進んで、それまでご来賓は先述の通り故先生を讃えるご遺徳のことであったが「開口一番」私は今「故福岡先生はスキー界の低調を嘆いておられます」と発言。

周囲の方々は一斉に私に注目。

続けて私は「近頃スキー界の低調は今日ここにお集まりの皆さまの情熱に掛かっております。是非とも、スキー普及発展のために先達の皆様方のご努力を必要としております」云々とやってしまいました。



このスキー界の不調は今でも残念ながら続いておりますが・・・

本年２月、ソチで冬季オリンピック開催されジャンプやノルディック、スノボードや障害者アルペン活躍に目覚ましい物がありましたが、ノーマルなアルペン競技は振るわず聊か残念ではありました。

諸氏ご存じの事です。スキー不振はこの数年メッカ北海道でも減少と昨年なくなられた故坂井敏夫会長も嘆いておられましたが、我々が愛するスポーツ冬の王者、スキー資格者はと考えると無念の極みです。

昭和５２年、福岡孝行、柴田信一両先生を故高橋守彦（都指副会長）の協力で代々木「冬の部屋」にお招きし、全国スキー指導員会創立をお話ししてその後、各県連ブロック等に参加を依頼したのが夢のように思えます。

無い智慧を絞りイベントを考え我が国初の指導員誕生５０周年計画開催ができたのは平成元年８月２７日、強烈な台風の日でありました。その時の日指会報に私は、この行事は本来ＳＡＪが開催すべきもの、と書いておりますがＳＡＪは資格者認定だけでなく、より緊密に指導者協会とコンタクトをとり低調なスキー界をリードすべきである、と考えております。

５０周年記念時に参加されていたブロックと県連は現今、有力なスキー県をはじめ幾つかの県が脱しているのは誠に憂慮のことで是非とも復興の行動を起こして欲しいと考えております。

愛するスキーのために。



白馬連峰

## 創立30周年を祝して



NPO東京都スキー指導者協会  
会長 山崎 一正

日本スキー指導者協会30周年を迎えられました事、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げますと共に、いしづえを築かれ、故人となられた先輩や友人のご冥福を衷心よりお祈り申し上げます。

スキーとの交わりを持って60年、勤務先の山岳部に入り友達にスキーに誘われスキーの素晴らしさに魅了され現在に至っており、この間の様子を記述してみます。

昭和30年正月休みに、信濃四谷駅(白馬駅)に着き細野村(八方)の民宿に泊まり早朝から黒菱に登るに、リュックに弁当とセーター・スキーが折れた時の修理道具等入れ、スキーとリュックを背負って山道をラッセルしながら登った思い出(当時八方尾根にはリフトは無かった)。

昭和40年に入るとスキー人口も増え出し、用具も良くなって来た。結婚し子供も小学校に行き出したので、スキー友達と家族で志賀高原スキー場に行くと、スキーの上手な人が大勢の生徒にスキーを教えていた。その時の先生が三浦信夫様でした。あの様に上手になりたいと思い、八王子スキー連盟のスキー教室に行き、一級・準指導員資格を取得した。私の友達の兄さんが三浦信夫さんで、その友達の山口朝三さんに連れられて行った所が、東京都スキー指導員会のパーティ会場でした。当時の会長は福岡孝行先生で、我々は、会長と話が出来ませんでした。それから何時の日かSITの役員会があるから出席する様に連絡が有り、SITに行ったら仕事を行うようになり、その後SITの会合に出席させられた。すると北海道の柴田信一・栗林薫、東北から丹内正一・岸英三、神奈川から松浦益司郎、東京は杉山忠一様を始め大勢の役員が出席しスキー談義をしていた。

その後、東京都の会長が田英夫先生のと看、スキー指導員制度を文部省の傘下に入れようとする動きがあり、これを田英夫会長が国会で従来通りに行うように決めた。日本スキー指導員会は日本スキー指導者協会へと名称を変えた後、行事も盛んになりゴルフコンペ、北海道キロロスキー場で競技大会を数年行いましたが、会長が体調を崩した後、大会が減少して行き、その後の会長に坂本祐之輔氏が就任され、現在は、各指導員会のメンバーが協力し合い事業が発展する様会議を重ねている所です。

これからも皆様にご指導ご鞭撻をお願いし、30周年以降の発展を祈念しお祝いの挨拶とさせていただきます。

## スキー界活性化に向けて 無雪県の立場から



日本スキー指導者協会  
副会長 渡辺 忍

スキー界の低迷が深まるなか、SAJは登録会員数の増加について各都道府県連盟に対し目標値を定めるやら、指導者認定制度の改革など幾多の方策を講じてはきたが、未だ期待した効果はなく今日に至っている。

わが国のスキーブームは、振り返ると昭和31年のコルチナダンペッツオでの第7回冬季オリンピックでトニーザイラーがアルペン三冠王に輝き、日本の猪谷千春選手がスラロームにおいて銀メダルを獲り、国民に大きな感動を与えた。

そして来日したザイラー主演の「黒い稲妻」「白銀は招くよ」などの映画が上映された。白銀の山々でのザイラーのあの華麗な滑りに人々は魅了された。特に無雪地の都会の人々にとっては、雪国という異文化への憧れとスキーという上流指向と、戦後復興の中で、文化に対しての渴望などもあり大衆文化としてスキーが一大ブームを巻き起こした。

首都圏では、週末、上野・新宿駅にはスキー場への夜行列車に夕刻から長蛇の列ができた。昭和40年代に入ると夜行バス時代となり、ピーク時には週末ともなると上信越・東北地方に都心から約2000台の夜行バスが雪国をめざし、人々のスキーへの夢をふくらませたものだった。

雪国各地にはスキー場が急速に次々と新しく開設され、スキーが雪国の一大産業となった。またスキー用具も開発され、シーズンともなると街のスポーツ店にはスキー用具のニューモデルが陳列され関連の産業も隆盛を極めた。

しかし、30余年続いたスキーブームも翳りをみせ始めたのは昭和の終わりから平成の時代に入った頃だったろうか。

戦後の高度成長を経て文明が進化し人々をとりまくあらゆる環境が便利になり人々が求める文化が多様化してしまったこと、さらに高度成長の次に来る経済不況、物価上昇、生活様式の進化による家計に占める必要経費が増加し、余暇に要するゆとりが減少したことなど諸々の要因が挙げられるが、もう一つに、列島改造により高速道路の発達、あわせてマスメディアの発達により雪国という、かつては遠くにあった異文化が身近になってしまった事などを挙げたいが、私の考え過ぎだろうか。

明らかにスキー人口は減少しつつある現状であり、なかでも一般スキーヤーの人口減少は著しいものがある。我が国においてスキー産業を支えてきたのは、主として一般のスキー人口ではなかっただろうか。

まさしく、この事はスキー界の組織にとっても会員数の減少、企業からのサプライの減少などにより財政危機となっている。

最近のスキーヤーの層は徐々にマニアック化しつつあると思う。現在のこの時世では、たとえオリンピックスキー競技で日本の選手がメダルに輝いても、かつての大衆によるスキーブームを巻起した時代は、再び来ないだろうと思う。しか

し日本にこの素晴らしい四季が続く限り、このスキー文化を後世の若者達に是非とも引き継いでゆきたいと思う。何故ならスキーは、あの素晴らしい白銀の世界に身を委ね自らのシュプールを描く、雪山は人々の自己啓発のフロンティアである。私は、いつもフリチョフ・ナンセンの紀行文「グリーンランド横断記」前文を想い浮かべ、スキーの原点に立ち戻ることになっている。

雪山という大自然の中に次世代の若者達を誘い、あの感動を与え、より豊かな人生の一部に寄与出来たらなあ、と自らの人生を振り返り痛切に感じている。

このことがスキー界活性化の原動力であり、スキー文化の継承になることと確信している。

現在、SAJ傘下には、約42,000名(25年度)ものスキー指導員が登録されている。指導員の数は毎年着実に増加してきたが、果たしてその内何人が実際のスキーの指導に携わっているか？折角、指導員の資格を取っても、教える生徒がいないという現状ではないだろうか、かつてのスキーブームの時代では、「この指とまれ！」でスキーをやりたい人々が集まってきたが、これからの時代は受動的手段ではスキーヤーは集まらない。マスメディアもスキーブームを巻起してはくれないだろう。

そこで、これからの時代は、スキー指導者自らがこれからの次世代の若者達にスキー文化を伝え、引き継いでいく事を真剣に考え、行動していかなければならないと思う。この事が出来るのはSAJでもなく、各都道府県スキー連盟でもない。やはり、地域や職場に直接接点のあるクラブやそこに所属する指導者の考えかたに基づく組織づくりや活動の如何にかかわっているものと思う。

次世代の組織づくりはなかなか時間を要する課題であるが、今からでも遅くはない。

昨今のスキーブーム低迷の中でも、時間的・経済的に若干余裕のある中高年者を集めたスキー行事は多々見受けられる。これは、老後の「健康や生きがいづくり」としては、一定の意義があると思うが、残念ながら次世代の育成には繋がらない、

日本スキー指導者協会も目出度く30周年を迎え、さらに充実発展していくために、スキーの先達の方々の実績を学び、現状を知り、未来を創造するためにこの協会が単なる親睦の集団に留まらず、日本のスキー界活性化のためにスキー指導者が「これから何をなすべきか」について、話し合い、互いに情報や体験など提供し合い、あわせて世界のスキー界の動向などを学ぶ、シンポジウムなどを開催するなど、よりアカデミックな事業を取り入れたらどうか、若輩ながら提言いたしたい。

終わりに先生方のご健勝と今後のご活動を心よりご祈念いたしたい。

## 30周年によせて



福島県スキー指導員会  
副会長 白根 一英

日本のスキー指導員が、福島県五色温泉で昭和14年指導者養成講習会を実施して誕生したことは、福島県にとって、大変に意義が深いことと思います。それから、73年経過して今日に至っている事に深い感激を覚えます。

この間、指導員として、30年半分にも満たない年月ですがスキー界にたずさわってきたことに、今更驚いております。指導員会として組織との関わりは浅いので、今まであまり深くは考えておりませんでした。しかし、今回、原稿依頼を受け今までのことを振り返ってみると、かなりの歴史的出来事があり、今更ながら驚きとこれからどのように推進していくべきかが、大きな課題となりました。いままでの全日本の経過の概要については、日本スキー指導者協会会報「インストラクター」第28号に理事長の水島秀夫氏「SIJトピックス」に寄稿されております。また、「北海道スキー指導者協会の歩み」を現会長の藤島勝雄氏が「インストラクター」第24号から第27号まで北海道の歩みと併せて、日本指導者協会の発起人会から非常に詳しく現在に至るまでを寄稿されており、全てを網羅されていることに、敬服致しました。

今までいろいろな事項を単にスキー界の流れとして軽く考えていたことが、恥ずかしく思われます。

福島県は、「福島県スキー指導員会」の名称を冠に致しております。全日本の組織は、名称を平成10年（1998）日本スキー指導者協会に変更承認されております。このことは、驚きとして受け止められると思います。おそらく一般の会員の皆さんは、2つの組織が存在すると思っていると考えられます。この件について会員に情報の伝達が不足ではなかったかと、反省をしております。日本スキー指導者協会の歴史の中の事項について、若干述べてみます。1つは、名称の変更がされた頃から、各ブロックにおいて、脱退県があり、現在S I Jの加盟が北海道、東北、北関東、南関東が中心で全国組織とはいえない状態であるようです。当初を思うと非常に寂しい状態といえると思います。原因は何かという事に関しては、会報第25号の規約改正のはじめの文に的確に述べられております。良く「メリットは何か」とか言われるが「メリットのみ」が会や組織を形成することでは無いと思う。

スキー人口の減少、スノースポーツの減少が大きな課題である。さらに、お互いの友好関係、情報交換が重要視されることが大切なことで、各県の難しい事情や、さらに方向考え方に温度差があることがネックと思われるが…。今後の発展を期待したい。

次に資格付与制度について改めて当時のことが思い出されます。平成元年に始まり、当時「枕になる」と言われた分厚い教師教本と研修会を受講して資格を取得し、これが文科省認定国家資格の希望となるはずで、受講者は、大いに期待を



持ち取り組んでいたと思います。それが、文科省のねらいと、目的が異なり凍結状態になったりして、最終的に現行の指導員制度の維持と社会体育指導者制度の二本立てになって推進することになりました。なにか割り切れない気持ちでいるのも事実です。

最後に指導員会とはあまり接点がないかもしれませんが、平成9年11月から車山でのSAJ中央研修会で、副読本として「カービングターンのスキー指導」が配布され、各メーカーのカービング板の試走が行われた。このカービングターンについては、北海道の藤島理事長の寄稿「インストラクター第25号」に載せられており、昭和57年に小樽の琴坂守尚氏が研究発表をしたとあった。その後16年を経てSAJで推進されたとあり、その普及に携わってきたことで現在まであることに驚きを感じます。

30年の指導員会の歴史の中で福島県スキー指導員会は、目的の「親睦、資質の向上、活動を通じスキー・スノーボードの健全な普及・発展に寄与する」事に活動をしてきました。30周年記念事業としては、「親子スキー教室」を実施しました。東日本大震災事故による「いわき地区」の子供とその家族に心身のリフレッシュを図る目的で、平成24年2月に1泊2日で「独立法人国立磐梯青少年の家」の協力を得て実施しました。44名の子供連れがスキーを通して自然体験をし、心身のリフレッシュを図る事が出来、大変感謝されました。翌年も国立磐梯青少年の家と協賛で実施することが出来非常に良かったと思っております。このことが、将来のスノースポーツに帰ってくることを願っております。また、指導員会として県スキー連盟の事業に協力、さらに指導員の後継者の育成にも貢献をしております。問題点は、会員の高齢化、会員数の減少、予算の減少など、全日本スキー連盟及び指導者協会の問題点とも同じといえます。今後、会長はじめ、役員・会員と協力して少しでも問題の解決が出来るようにと考えている次第です。

3. 11の大震災、特に福島県は、更に原子力発電所の事故による線量問題、風評被害、避難生活等数多くの難問を抱え長期にわたり復旧復興に力を費やさなければなりません。これからも、SIJのご協力をお願いするようになると思います。その時はどうぞお力添えを頂きたいと思います。宜しく願いを申し上げ、文を閉じさせていただきます。

## 忘れ得ぬひと

## 阿部元副会長を偲んで

日本スキー指導者協会  
理事長 水島秀夫

阿部先生を脳裏に浮かべるとき、真っ先に強烈な印象で浮き上がってくる映像は、真夏の東北雄物川に大輪の花を咲かせる大曲花火大会です。

先生はこの業界での要職に就かれておりました。現場での多忙なところ合間を見ては栈敷席に来てくださり、打ちあがる勇壮な花火の解説をしてくださいました。お陰様で大曲の花火とは何かを勉強させて頂き、この花火大会には三度お世話になりました。先生本当にありがとうございました。

また、精錬潔白な阿部先生のお人柄にひかれた、多くの著名人もおられました。元会長田英夫先生のつながりもあり、旧社会党党首の土井たか子先生、福島瑞穂先生、大スター長嶋茂雄氏ともパーティーで一緒致した時もありました。またノルディックの荻原選手が参議院時代には党派を超えてスキーのお話をされたものです。一昨日のように鮮烈な記憶になってとどまっております。長嶋選手はこの後まもなく体調を崩されびっくりした記憶があります。

さて、田英夫先生亡き後の日本スキー指導者協会のキャップが大変心配された時、当時の長老の方々のお働きで、現在の新進気鋭の坂本祐之輔氏に白羽の矢を立て東松山に行って長時間説得された記憶が鮮明です。固く固辞されましたが、再度のお願いの結果お引き受け頂きました。これも阿部先生以下、現在の重鎮職を務めておられる先生方の熱意の結果と受け止めております。

阿部先生の晩年は健康上、とてもつらいことが多かったと想像しております。お酒を召し上がらない先生は、必然とヘビースモーカーでした。東京での会議の時はよく待ち合わせて、銀座三越のフルーツパーラーでクリームアンミツを食べてから事務所に行ったものでした。皆さん方には想像もつかないことと存じます。

晩年に、あっという間に病が重くなりながらも、気丈夫にスマートにふるまっていたと思います。東京の山崎会長とは、自分の現在の体の具合と気持ちを伝えておられたものと拝察いたしますが、最期となる数日前に私がお電話した時も緊急事態は一切申されませんでした。必ず生還すると信じておりました。かっこよく逝ってしまった阿部先生でした。

私にとっては、生涯忘れえぬ方です。ご冥府を心よりお祈り致します。



## 謝 辞



日本スキー指導者協会  
理事長 水島 秀夫

日本スキー指導者協会30周年の区切りの日を迎え、会員の皆様がたと喜びを共有できることに、私は大きな喜びを感じます。無事今日を迎えられましたことは、ひとえに会員の皆様方や、公益財団法人全日本スキー連盟、また多くの協賛会員の皆様方のご支援の賜物と衷心より感謝申し上げます。

手元に「INSTRUCTOR」第1号がございますが、日本スキー指導員会設立までの経過が詳細に記載されております。この経過報告書は、昭和57年7月9日の発起人準備委員会から昭和59年8月26日開かれた総会までの経過を事務局議事録によってまとめたものです。記録によると、ほぼ2年間にわたる準備期間があり、「昭和58年10月30日、日本スキー指導員会設立準備委員会及び創立総会を東京日本学生会館を会場として開催」とあります。今は亡き柴田先生、堀修一先生、田英夫先生、当時の常任幹事で今もご健在の林権一先生などの情熱により、うぶ声を上げたのです。翌年、昭和59年8月26日、「昭和60年度の日本スキー指導者協会総会」を東京岸記念会館で開催し、総勢44名の出席を得て規約の一部改正や事業計画などが採択されたとあります。実質的な活動の幕開けといえるでしょう。

昭和62年（1987年）にスキーブームの始まりは「私をスキーに連れてって」でした。ザウス人工スキー場のオープンもこの頃で、当然スキー人口も飛躍的に増えました。当然有資格者及び競技人口、クラブ員登録も増加致しました。然しながらこの後の景気の低迷が長く続き、一時のスキーブームも終焉を迎えました。

また日本スキー指導者協会も設立当時に掲げた、指導者の全国規模の組織にならないまま今日に至っております。

日本スキー指導者協会にとっての急務は、雪あり県の本会への登録依頼を展開する事に尽きると考えております。険しく長い道のりかもしれませんが、各位の応援を得て実行して行きたいと考えております。

# 30th ANNIVERSARY

## 年 表



設立発起人会が集った 田仲旅館



創立20周年記念式典

西 暦	和 暦		出 来 事
1982	S	57	7/ 9 仮称日本スキー指導員協議会、発起人準備委員会開催
1982	S	57	8/28 仮称日本スキー指導員協会設立発起人会、東京・田仲旅館で開催 -29 発起人 元木義夫（代表山形） 柴田信一、田 英夫、西原 雅、浅井清治郎、松浦益 司郎、青木 徹、菅 秀文ら参加者32名
1983	S	58	6/11 日本スキー指導員会設立準備委員会、東京・田仲旅館で開催
1983	S	58	10/30 日本スキー指導員会設立準備委員会及び創立総会を東京・日本学生会館で開催
1984	S	59	5/20 日本スキー指導員会、ブロック代表者会議開催
1984	S	59	7/14 常任理事会開催
1984	S	59	8/26 昭和60年度日本スキー指導員会総会、東京都岸記念体育館で開催
1984	S	59	11/25 (財)全日本スキー連盟秋季評議員会にて設立の届出を正式に承認
1985	S	60	
1986	S	61	
1987	S	62	1/24 社会体育指導者の知識・技能審査事業の認定に関する規程」を告示 (文科省HPより)
1988	S	63	
1989	H	1	8/27 指導員制度50周年
1990	H	2	
1991	H	3	
1992	H	4	
1993	H	5	
1994	H	6	規約改正：第2章目的および事業、第4章役員 第5章会議、第7章雑則
1995	H	7	親睦ゴルフ大会開始(第1回 きぬがわ高原CC)
1996	H	8	規約検討委員会発足承認・役員選任承認
1997	H	9	規約検討委員会報告
1998	H	10	名称「日本スキー指導者協会」承認
1999	H	11	
2000	H	12	SIJカップフェスティバル事業開始(第1回 キロロ大会)
2001	H	13	ホームページ開設
2002	H	14	11/20 日本スキー指導者協会創立20周年
2003	H	15	
2004	H	16	役員改選 仙台法華クラブ幹事会5/22開催
2005	H	17	西日本ブロック脱会申出
2006	H	18	西日本ブロック慰留
2007	H	19	顧問弁護士委託
2008	H	20	西日本ブロック脱会は静観 新潟県指脱会
2009	H	21	群馬県指脱会、組織の再検討 7/26坂本祐之輔新会長就任
2010	H	22	規約全面改訂 常任幹事⇒理事 監査⇒監事など呼称変更
2011	H	23	3/11 東日本大震災
2012	H	24	
2013	H	25	6/15 故阿部雄三さんを偲ぶ会 於:スワール麹町 主催:NPO東京都社-指導者協会
2014	H	26	4/12 SIJカップフェスティバルをSIJ親睦スキーフェスティバルに改称 11/9 日本スキー指導者協会創立30周年 記念 祝 賀 会 開 催

# 30th ANNIVERSARY

## 歴代役員（都道府県別順不同）その1

### 名誉会長

松浦益司郎	神奈川	1990	～	1993	⇒名誉顧問
菅 秀文	東京	1997	～	2014	現

### 名誉顧問

柴田 信一	北海道	1988	～	1995	没
栗林 薫	北海道	2002	～	2005	没
田 英夫	東京	2010	～	2010	没
松浦益司郎	神奈川	1994	～	2000	没

### 特別顧問

丸山 庄司	長野	2002		2014	現
-------	----	------	--	------	---

### 顧問

栗林 薫	北海道	1985	～	2001	⇒名誉顧問
中川伊佐美	北海道	1986	～	1991	⇒監査
近藤 晃	北海道	2006	～	2009	
毛利 修三	北海道	2008	～	2014	現
坂井 敏夫	北海道	2012	～	2012	没
坂井 和夫	北海道	2014	～	2014	現
丹内 正一	青森	1996	～	2005	没
瀬川 佳男	岩手	1984	～	2000	没
小林 作雄	秋田	1984	～		
岸 英三	山形	1984	～	2014	現
堀 恒也	山形	1984	～	2013	没
堀 修一	山形	1995	～	2001	
谷 道夫	茨城	1990	～	1997	
神山 保治	栃木	1988	～	1993	
中沢 清	群馬	1984	～		2009脱退
大熊 勝朗	群馬	1984	～	1991	2009脱退
山本 富雄	群馬	1984	～	1993	2009脱退
目崎 武美	群馬	1998	～	2008	2009脱退没
金井英一郎	千葉	2002	～	2005	没
田 英夫	東京	1984	～	1996	⇒会長
福岡 孝純	東京	1984	～	2014	現
杉山 忠一	東京	1990	～	1993	
小島 弘平	東京	1991	～	2000	没
荒井 哲夫	東京	2004	～	2011	没
林 権一	東京	2004	～	2014	現
杉崎壽三男	東京	2010	～	2014	現
阿部 雄三	東京	2012	～	2013	没
三塚正二郎	神奈川	1984	～	1994	没
黒川 秋三	神奈川	1988	～	1998	没
石田 久夫	神奈川	1998	～	2005	没
片岡 春夫	神奈川	1998	～	2013	没
大澤 佑吉	神奈川	2012	～	2014	現
藤巻 文司	新潟	1984	～	2003	没
次井 農	新潟	1988	～	2008	2008脱退
片桐 匡	長野	1984	～	2005	没
平林 堅	長野	1989	～	2007	没
天野 誠一	大阪	1984	～	1989	2005脱退没
浅井清治郎	大阪	1996	～	2001	2005脱退
西山 実幾	奈良	1984	～	1999	2005脱退
大館 禅雄	鳥取	1999	～	2004	2005脱退
児島 嘉男	岡山	1983	～		2005脱退

### 参与

宮本忠五郎	宮城	1995	～	2014	現
松谷 富彦	宮城	2004	～	2009	没
廣岡 和夫	福島	2006	～	2009	没
長澤 光雄	千葉	2012	～	2014	現
林 権一	東京	2002	～	2003	⇒顧問
浦辻 直	東京	2004	～	2014	現
片岡 春夫	神奈川	1995	～	1997	⇒顧問

### 顧問弁護士

菅原 哲朗	〒ｽﾄ	2008	～	2014	現 〒ｽﾄ法律事務所
-------	-----	------	---	------	------------

### 会長

柴田 信一	北海道	1984	～	1987	⇒名誉顧問
坂本祐之輔	埼玉	2010	～	2014	現
菅 秀文	東京	1990	～	1996	⇒名誉会長
田 英夫	東京	1997	～	2009	⇒名誉顧問
松浦益司郎	神奈川	1988	～	1989	⇒名誉会長

### 副会長

栗林 薫	北海道	1984	～	1985	⇒顧問
速水 潔	北海道	1990	～	2002	
近藤 晃	北海道	2002	～	2005	⇒顧問
坂井 敏夫	北海道	2004	～	2011	⇒顧問
毛利 修三	北海道	2006	～		⇒顧問
坂井 和夫	北海道	2012	～	2013	⇒顧問
藤島 勝雄	北海道	2014	～	2014	現
丹内 正一	青森	1984	～	1995	⇒顧問
半沢 進	宮城	2004	～	2014	現
堀 修一	山形	1984	～	1994	⇒顧問
元木 義夫	山形	1996	～	1999	
安藤 惟晴	山形	2002	～	2003	
小林 茂	栃木	1984	～	1991	
綱川 千夫	栃木	1998	～	2011	没
目崎 武美	群馬	1992	～	1997	⇒顧問
金井英一郎	千葉	1984	～	2001	⇒顧問
渡辺 忍	千葉	2006	～	2014	現
菅 秀文	東京	1984	～	1989	⇒会長
加藤 二郎	東京	1990	～	1993	
阿部 雄三	東京	2002	～	2011	⇒顧問
山崎 一正	東京	2012	～	2014	現
松浦益司郎	神奈川	1984	～	1987	⇒会長
片岡 春夫	神奈川	1992	～	1994	⇒参与
大澤 佑吉	神奈川	2002	～	2011	⇒顧問
榎本 勝雄	神奈川	2014	～	2014	現
宮沢 一英	新潟	2000	～	2008	2008脱退
片桐 匡	長野	1988	～	1991	没
郷津 勝	長野	1994	～	2003	
西原 雅	東海北陸	1984	～	1991	
松山 彦一	三重	1996	～	1997	
中川 利夫	滋賀	2000	～	2003	2005脱退
浅井清治郎	大阪	1984	～	1995	2005脱退
吉田晃一郎	大阪	2004	～	2005	2005脱退
大館 禅雄	鳥取	1992	～	1997	2005脱退

### 監査（2011～監事）

中川伊佐美	北海道	1992	～	1995	
三上 一	青森	2004	～	2007	
宮本忠五郎	宮城	1984	～	1994	
松谷 富彦	宮城	1995	～	2003	⇒参与
谷 道夫	茨城	1984	～	1989	
榎本 建司	栃木	2004	～	2014	現
丸山 恭一	群馬	2006	～	2007	⇒幹事
阿左見 孝	千葉	1995	～	2001	
渡辺 忍	千葉	2002	～	2005	⇒副会長
長澤 光雄	千葉	2008	～	2011	⇒参与
巻坂 伸治	千葉	2012	～	2014	現
長井新次郎	東京	1983	～		
林 権一	東京	1990	～	1993	
阿部 雄三	東京	1996	～	1997	⇒常任監事
荒井 哲夫	東京	1998	～	2003	⇒顧問

### 特別幹事(SAJ 理事)

丸山 庄司	長野	1998	～	2001	
杉崎壽三男	東京	2002	～	2009	⇒顧問
谷 雅雄	東京	2010	～	2011	
増田 千春	東京	2012	～	2014	現



# 30th ANNIVERSARY

## 歴代役員（都道府県別順不同）その2

### 常任幹事（2011～理事）

中川伊佐美	北海道	1983	～	1984	⇒顧問
近藤 晃	北海道	1986	～	2001	⇒副会長
福地 白	北海道	2002	～	2007	
菊地真一郎	北海道	2000	～	2001	
藤島 勝雄	北海道	2007	～	2013	⇒副会長
吉田 勇夫	岩手	2004	～	2014	現
元木 義夫	山形	1984	～	1995	⇒副会長
安藤 惟晴	山形	1996	～	2001	
鈴木 勘重	山形	2008	～	2014	現
廣岡 和夫	福島	2002	～	2005	⇒参与
阿部 隆郎	福島	2012	～	2014	現
古賀 澄夫	茨城	2004	～	2014	現
綱川 千夫	栃木	1996	～	1997	⇒副会長
榎本 建司	栃木	1998	～	2003	⇒監査
石塚 光雄	栃木	2010	～	2014	現
青木 敏	群馬	1984	～	1993	2009脱退
津守 達男	埼玉	1984	～	1993	
小笠原健一	埼玉	2004	～	2011	
新井 臣一	埼玉	2010	～	2014	現
福田 真人	埼玉	2013	～	2014	現
渡辺 忍	千葉	1997	～	2001	⇒監査
長澤 光雄	千葉	2002	～	2007	⇒監査
佐藤 昭藏	千葉	2008	～	2014	現
奥住 公夫	千葉	2014	～	2014	現
杉山 忠一	東京	1984	～		
林 権一	東京	1984	～	1989	⇒監査
荒井 哲夫	東京	1988	～	1997	⇒監査
阿部 雄三	東京	1990	～	1995	⇒監査
阿部 雄三	東京	1998	～	2001	⇒副会長
浦辻 直	東京	1998	～	2003	⇒参与
山崎 一正	東京	2004	～	2011	⇒副会長
和田 守義	東京	2012	～	2014	現
片岡 春夫	神奈川	1988	～	1991	⇒副会長
水島 秀夫	神奈川	2000	～	2014	現
大澤 佑吉	神奈川	1995	～	2001	⇒副会長
吉岡 幹雄	神奈川	2000	～	2001	
藤木 昇	神奈川	2002	～	2014	現
宮沢 一英	新潟	1990	～	1999	⇒副会長
田子 敏	新潟	2002	～	2003	2008脱退
広島 茂夫	新潟	2006	～	2007	2008脱退
松田喜代美	福井	1996	～	1997	
松田 正義	岐阜	1984	～	1991	
中川 利夫	滋賀	1984	～	1997	
前田 信男	京都	1998	～	1999	2005脱退
吉田晃一郎	大阪	1988	～	1995	2005脱退
松本 一克	奈良	2002	～	2004	2005脱退
矢船 保夫	和歌山	1998	～	2004	2005脱退
大館 禅雄	鳥取	1990	～	1991	⇒副会長
田部 保夫	山口	1992	～	1997	2005脱退

### 幹事（2011～代表委員）

近藤 晃	北海道	1983	～	1985	⇒常任監事
福地 白	北海道	1983	～	2001	⇒常任監事
飯田 誠一	北海道	1990	～	2005	
喜澤 一史	北海道	2004	～	2007	
中村啓二郎	北海道	2008	～	2011	
三浦 光男	北海道	2012	～	2014	現
児玉 昂三	青森	1986	～	1997	
三上 一	青森	1998	～	2003	⇒監査
伊藤 章一	岩手	1988	～	1991	
坂本 孝	岩手	1992	～	1999	
沢野 義男	岩手	2000	～	2003	
松谷 富彦	宮城	1994	～	1994	⇒監査
桜井 正一	宮城	1994	～	2001	
半沢 進	宮城	2002	～	2003	⇒副会長
小助川瑞雄	秋田	1994	～	1997	
馬淵 清人	秋田	1986	～	1999	
安藤 惟晴	山形	1986	～	1995	
鈴木 勘重	山形	2001	～	2007	⇒常任監事

### 幹事（2011～代表委員）つづき

佐久間富雄	福島	1986	～	1998	
廣岡 和夫	福島	1999	～	2001	⇒常任監事
安部 英夫	福島	2006	～	2011	
小沢 昭寿	東北	1984	～	1987	
南条 利光	茨城	1990	～	1993	
宮田 久行	茨城	1994	～	1997	
岡野 秀一	茨城	1998	～	2003	
綱川 千夫	栃木	1986	～	1995	⇒常任監事
榎本 建司	栃木	1996	～	1997	⇒常任監事
目崎 武美	群馬	1990	～	1991	⇒副会長
都丸 慎哉	群馬	1996	～	2001	2009脱退
丸山 恭一	群馬	2002	～	2005	⇒監査
丸山 恭一	群馬	2008	～	2009	2009脱退
須田 克彦	埼玉	1984	～	1993	
篠崎 満正	埼玉	1986	～	1991	
信原 雄一	埼玉	1986	～	1987	
山岡 恂	埼玉	1992	～	2000	
小笠原健一	埼玉	2002	～	2003	⇒常任監事
大熊 忠男	埼玉	2004	～	2009	
金井 久	埼玉	2010	～	2014	現
矢口 昭二	千葉	1984	～	1987	
長谷川勝人	千葉	1986	～	1993	
阿左見 孝	千葉	1990	～	1994	⇒監査
渡辺 忍	千葉	1996	～	1997	⇒常任監事
長澤 光雄	千葉	2000	～	2001	⇒常任監事
林 茂美	千葉	2002	～	2007	
庄司 高士	千葉	2008	～	2014	現
岡田 興一	東京	1884	～	1989	
荒井 哲夫	東京	1884	～	1887	⇒常任監事
阿部 雄三	東京	1988	～	1989	⇒常任監事
勝井 康昭	東京	1992	～	1995	
浦辻 直	東京	1992	～	1997	⇒常任監事
山崎 一正	東京	1996	～	2003	⇒常任監事
高橋 正視	東京	2000	～	2001	
田口 嘉雄	東京	2000	～	2001	
荻野 恒夫	東京	2004	～	2009	没
高橋イキ工	東京	2004	～	2011	
和田 守義	東京	2010	～	2011	⇒常任監事
芳賀 寛	東京	2012	～	2014	現
西塚 彰	東京	2014	～	2014	現
柳沢須佐男	神奈川	2084	～	2085	没
水島 秀夫	神奈川	1990	～	1993	⇒常任監事
大澤 佑吉	神奈川	1991	～	1994	⇒常任監事
須田 恒男	神奈川	1991	～	1994	
吉岡 幹雄	神奈川	1995	～	1997	⇒常任監事
野地 澄雄	神奈川	1998	～	2001	
大山 重彦	神奈川	2002	～	2003	
大山 重彦	神奈川	2014	～	2014	現
古藤 公昭	神奈川	2004	～	2005	
水島三千夫	神奈川	2004	～	2011	
宮園 千夫	神奈川	2006	～	2009	没
中森 博文	神奈川	2010	～	2011	
榎本 勝雄	神奈川	2012	～	2013	⇒副会長
西室 泰昭	山梨	1990	～	1993	
石原 玲二	山梨	1994	～	2001	
小林 賢	山梨	2002	～	2014	現
岸野 力雄	新潟	1990	～	1991	2008脱退
前山 敏男	新潟	1992	～	1993	2008脱退
遠藤 良一	新潟	1992	～	2003	2008脱退
中村 正良	新潟	2008	～	2009	2008脱退
宮原喜和太	長野	1990	～	1993	
岸田 栄吉	長野	1994	～	2007	
藤原 芳春	長野	2008	～	2011	
宮津 久男	長野	2012	～	2014	現
太田 勝久	富山	1984	～	1991	
徳山 俊介	石川	1988	～	1991	
徳山 陽三	東海北陸	1984	～	1985	

以下2005年脱退した西日本の過去の幹事の表は省略する

# 30th ANNIVERSARY

## 総会と主な審議事項

\* 総会議事録より抜粋

西暦	和暦	総会	開催	会場	主な審議事項
1983	S 58	設立総会	10/30	日本学生会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員選出</li> <li>会費の納入について提案</li> </ul>
1984	S 59	S60総会	8/26	崖記念体育館	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業計画、予算について</li> <li>規約の補足と確認</li> </ul>
1985	S 60	常任幹事会	4/18	平安菜館	<ul style="list-style-type: none"> <li>規約改訂について</li> </ul>
1986	S 61	S62総会	8/24	グランド市ヶ谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員の交代について</li> <li>総会開催の持ち回りについて</li> <li>規約改定</li> </ul>
1987	S 62	S63総会	8/23	グランド市ヶ谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>規約一部改正</li> <li>役員選任</li> <li>会費徴収について</li> <li>指導員制度50周年記念行事開催について</li> </ul>
1988	S 63	S64総会	8/27	グランド市ヶ谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導員制度50周年記念行事について</li> <li>全国指導員フェスティバルについて</li> </ul>
1989	H 1	H2総会・記念式典	8/27	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導員制度50周年記念行事について</li> </ul>
1990	H 2	H3総会	8/26	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員の選任</li> <li>社会体育指導者付与制度について</li> </ul>
1991	H 3	H4総会	8/25	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格付与制度について</li> <li>役員改選</li> </ul>
1992	H 4	H5総会	9/6	食糧会館	<ul style="list-style-type: none"> <li>受益者負担と役員の旅費等から値上げ提案</li> </ul>
1993	H 5	H6総会	7/18	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員改選</li> <li>北海道からの提案：</li> </ul>
1994	H 6	H7総会	7/17	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>資格付与制度の現況</li> <li>役員選出</li> <li>規約の扱いについて</li> </ul>
1995	H 7	H8総会	8/27	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>役員の推挙推薦について</li> <li>規約の扱いについて</li> </ul>
		H8総会臨時	11/12	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>執行部の責任について</li> <li>行事について</li> <li>規約の扱いについて</li> <li>会長代行選出（金井代行に決定）</li> </ul>
1996	H 8	H9総会	6/09	スクール麹町	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブロック分担金値上げ決定</li> <li>事業計画表作成に関しての要望</li> <li>役員選出</li> </ul>
		H9総会臨時	9/08	鬼怒川御苑	<ul style="list-style-type: none"> <li>規約検討委員会発足</li> <li>SAJ丸山教育本部長（SIJ担当理事）に対応した規約検討</li> <li>役員選任</li> </ul>
1997	H 9	H10総会	7/12	サンプラザ浜松町	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案事項なし</li> <li>規約検討委員会報告</li> </ul>
1998	H 10	H11総会	7/19	サンプラザ浜松町	<ul style="list-style-type: none"> <li>名称「日本スキー指導者協会」承認</li> </ul>
1999	H 11	H12総会	7/18	サンプラザ浜松町	<ul style="list-style-type: none"> <li>規約改定</li> <li>SAJ組織からの分離・独立について</li> <li>役員選出</li> </ul>
2000	H 12	H13総会	7/15	サンプラザ浜松町	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本財団への補助申請事業について(NPO)</li> <li>インターネット「ホーム・ジ」の開始について</li> <li>SAJとの相互協力事業について</li> </ul>
2001	H 13	H14総会	8/5	サンプラザ浜松町	<ul style="list-style-type: none"> <li>NPOについて</li> <li>役員改選</li> </ul>
2002	H 14	H15総会	8/4	サンプラザ浜松町	<ul style="list-style-type: none"> <li>日指創立20周年記念行事開催決定(11/20)</li> </ul>

# 30th ANNIVERSARY

## 総会と主な審議事項

\* 総会議事録より抜粋

西暦	和暦	事業年度	開催	会場	主な審議事項
2003	H 15	H16総会	8/2	サッポロ浜松町	・ 役員改選
2004	H 16	H17総会	7/31	サッポロ浜松町	・ 規約一部改正 先輩指導員功労称号について ・ 西日本脱会は保留
2005	H 17	H18総会	8/7	サッポロ浜松町	・ 西日本脱会調査について
2006	H 18	H19総会	7/30	サッポロ浜松町	・ 西日本脱会慰留について
2007	H 19	H20総会	7/21	スクール麹町	・ 顧問弁護士委託
2008	H 20	H21総会	7/27	ルネー・ル麹町	・ 新潟県指脱会/組織の再検討へ
2009	H 21	H22総会	7/26	スクール麹町	・ 新会長に坂本祐之輔就任 / 群馬県指脱会
2010	H 22	H23総会	8/8	シーサイト芝弥生	・ 規約全面改訂
2011	H 23	H24総会	7/9	スクール麹町	・ 役員改選
2012	H 24	H25総会	7/21	スクール麹町	・ 30周年記念を事務局で検討
2013	H 25	H26総会	6/29	スクール麹町	・ 規約一部改正は継続審議
2014	H 26	H27総会	6/28 11/9	スクール麹町 スクール麹町	・ 日指創立30周年記念行事開催決定(11/9) ・ 日指創立30周年記念行事開催(予定)

\*\*\*\*\*

会報 INSTRUCTOR 発行履歴(BACK NUMBER)

MEMO

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

1号 (S59/12/25)

全日本スキー連盟評議員会がSIJを承認 S59/11/25

2号 (S61/7/25)

文部省社会体育指導者資格制度告示 S62/1/24

3号 (S62/8/23)

4号 (S63/8/27)

5号 (H1/8/31) 指導員制度50周年記念号併号

SAJを社会体育指導者資格制度審査事業に認定

6号 (H2/11/1)

7号 (H3/8/25)

8号 (H4/9/6)

9号 (H5/11/1)

10号 (H6/12/15)

11号 (H7/11/1)

12号 (H8/11/1)

13号 (H9/11/30)

14号 (H10/11/30)

15号 (H11/11/30)

16号 (H12/11/30)

17号 (H13/11/30)

18号 (H14/11/20) 20周年記念号併号

19号 (H15/11/1)

20号 (H16/11/1)

21号 (H17/11/1)

22号 (H18/11/1)

23号 (H19/11/1)

24号 (H20/10/1)

25号 (H21/10/1)

26号 (H22/10/1)

27号 (H23/10/1)

28号 (H24/10/1)

29号 (H25/10/1)

30号 (H26/10/1) 30周年記念号併号

執行部辞任と臨時総会

ゴルフ場で臨時総会 9月

長野オリンピック開催 1998 H10/2/7-22

日本スキー指導者協会に改称

文部大臣に確認(社会体育指導者資格制度)

西日本ブロック脱会申出 H16/10/14

新潟県脱会申出H20/1/5 群馬県脱会申出H20/8/12

## INSTRUCTOR No.18-No.29 主なコンテンツ

18号(20周年記念号)	H14/11/20	22号 つづき	H18/11/1
韓国指導者と交流を ごあいさつ 20周年を迎えて 祝辞 SAJ会長 創立20周年に寄せて	田 英夫 田 英夫 堤 義明 青木 巖	SITが米国バイル研修会を委託実施 バイル会場研修会の運営を担当して 老人難民をつくらないために アルペンスキーにおけるターン運動技術の類似性に 関する一考察 今シーズンの最大の関心事・久哉技術選を語る	荻野 恒雄 百々 弘毅 平沢 文雄 塚脇 誠 水島 秀夫
創立20周年を祝して スキー指導と組織の歩み 日指のはじまり ルーツを探れば 初代会長 柴田信一先生を偲んで 松浦益司郎先生を偲んで	丸山 庄司 菅 秀文 林 権一 栗林 薫 水島 秀夫	23号	H19/11/1
近未来のビジョンについて みんなでスキーを 21世紀のスキー指導者像 草の根指導員	五十嶋博文 坂本祐之輔 福岡 孝純 金井英一郎	巻頭言 SAJ情報 スキー映画「銀色のシーズン」が完成 1 月12日からロードショー スキー技法のリピート スキー技術の方向について SIK海外スキーと観光の旅IN AUSTRIA 8日間 登録数の減少と有資格の返上を如何にとどめるのか	田 英夫 丸山 庄司 菅 秀文 増田 千春 矢内 久光 水島 秀夫
19号	H15/11/1	24号	H20/10/1
ニュージーランドの一面 ※スノースポーツ活性化の 参考として 雪でスポーツしよう 1月12日スキーの日制定 マス・スキー指導 一雑学一	田 英夫 丸山 庄司 菅 秀文	中国のスキー指導者育成  日本スキー指導者協会のあり方について 拡大常任幹事会報告より 親睦と交流の指導員会 旗印に集い大いなる躍進を (創刊号巻頭言再録) 北海道スキー指導者協会の歩み 1 学校スキー学習の実態を考える	田 英夫    藤島 勝雄 中村啓二郎
スノースポーツ指導者の総合商社として スキーと怪我/全日本マスタース完全制覇への夢 低下する指導員制度の意義 私の頭の中を巡ったもの シニア再起動 全日本スキー連盟教育本部報告	中村敬二郎 三上 一 西村 幸雄 中川伊佐美 金井英一郎 五十嶋博文	25号	H21/10/1
20号	H16/11/1	就任のごあいさつ 今スキー指導者は何を為すべきか スキー界の発展はまさに強い意思で 指導者団塊世代の役割を再認識しよう 北海道スキー指導者協会の歩み 2	坂本祐之輔 福岡 孝純 水島 秀夫 中村啓二郎 藤島 勝雄
南極のスキー パラダイムの変換へ・技法と組織の近未来 復活スノースポーツ 初の世界選手権制覇とトリノオリンピックで日の丸を 南極でのスキー ニューエルダーシチズン大賞「生き方上手特別 賞」に輝く 柳澤須佐男氏紹介 会報 INSTRUCTORの使命について 各指導員会に関するアンケート調査の内容	田 英夫 菅 秀文 丸山 庄司 佐々木 峻 櫻庭 俊昭 水島 秀夫 事務局	26号	H22/10/1
21号	H17/11/1	巻頭言 インタースキーと日本の行方 自然に親しみスキーを楽しむ ヴァリアブル指導 スポーツ基本法が施行された SAJ情報 新たなスキーシーズンに向けて/教育本部 行事一覧表 北海道スキー指導者協会の歩み 4	坂本祐之輔 福岡 孝純 丸山 庄司 菅 秀文 菅原 哲朗 増田 千春 藤島 勝雄
初めてのスキー SAJ情報 スキーにつれて行こう 求められるスノースポーツ指導者像 2005 I S V I (国際スキー指導者連盟)総会報告 I S V I 視察団に参加して	田 英夫 丸山 庄司 五十嶋博文 田 和夫 島村 一男	27号	H23/10/1
特集 極限の華麗さを求めて・近代スキーにみ る進化と合理性 パネラー 澤田敦・高橋育美・塚脇誠/水島秀夫 日本スキー指導者協会の当面する問題点 佐藤久哉デモと中澤美樹デモへのインタビュー	水島 秀夫 SAT広報部	28号	H24/10/1
22号	H18/11/1	巻頭言 ※オリンピック招致を実現しよう 創立30周年記念を迎えて 特定非営利活動法人への移行 東京都スキー指導者協会	坂本祐之輔 水島 秀夫 和田 守義
再びスキーの隆盛を SAJ情報 指導者よ!!スキーの素晴らしさを伝え よう スキーの価値を見直そう	田 英夫 丸山 庄司 五十嶋博文	29号	H25/10/1
今再び自然にかえり生命の甦りを シナジー効果を求めて 中高年指導ひとすじ	福岡 孝純 菅 秀文 平沢 文雄	巻頭言  第12回 I S V I (国際スノースポーツ指導者連盟)大会アルプ ・デ・エス (フランス) 報告 東京オリンピック開催決定と長野オリンピックの思い出 東京オリンピック・パラリンピック招致で示したあの一様感を 我々も・・・ アンドラススキーツアーに参加して	坂本祐之輔 福岡 孝純 丸山 庄司 水島 秀夫 山田 益広

## 日本スキー指導者協会 創立から2002年度の出来事・会議・行事(年表)

事業年度	1982-83年(S57-58)	1984年度(S59年度)	1985年度(S60年度)	1986年度(S61年度)	1987年度(S62年度)
会長	創立前	柴田 信一	柴田 信一	柴田 信一	柴田 信一
出来事	S57/7/9 発起人準備会 S57/8/28-29発起人会 東京 田仲旅館 発起人ら参加32名 S58/6/11設立準備委員会 東京 田仲旅館	日本スキー指導員会創立	S59/11/25全日本スキー連盟評議員会がSIJを承認		S62/1/24文部省社会体育指導者資格制度告示
総会	会場 期日 内容	日本学生会館 S58/10/30 日本スキー指導員会創立総会/役員選出/会費/規約発効	岸記念体育館 S59/8/26 事業計画/予算/規約補足と確認		グランド市ヶ谷 S61/8/24 役員交代/規約改正/総会開催地持ち回り案
事業年度	1988年度(S63年度)	1989年度(H1年度)	1990年度(H2年度)	1991年度(H3年度)	1992年度(H4年度)
会長	松浦益司郎	松浦益司郎	菅 秀文	菅 秀文	菅 秀文
出来事			SAJを社会体育指導者資格制度審査事業に認定		
総会	会場 期日 内容	グランド市ヶ谷 S63/8/27 規約改正/役員選任/会費徴収について	グランド市ヶ谷 S63/8/27 規約改正/指導員制度50周年行事とフェスティバル案	スクワール麴町 H1/8/27 指導員制度50周年記念式典・役員改選/甲信越加盟	スクワール麴町 H2/8/26 役員選任/社会体育指導者資格制度について
事業年度	1993年度(H5年度)	1994年度(H6年度)	1995年度(H7年度)	1996年度(H8年度)	1997年度(H9年度)
会長	菅 秀文	菅 秀文	菅 秀文	菅 秀文/金井英一郎代行	田 英夫
出来事			インタースキー野沢大会	執行部辞任と臨時総会	9月ゴルフ場で臨時総会
総会	会場 期日 内容	スクワール麴町 H5/7/18 会長選任について/役員改選/資格付与現況	スクワール麴町 H6/7/17 役員選任/規約改正/東海北陸加盟	スクワール麴町 H7/8/27・臨時H7/11/12 役員推挙/規約改正 臨時・会長辞任	スクワール麴町・鬼怒川御苑 H8/6/9・臨時H8/9/8 会費値上げ/役員改選/資格付与の現況・規約検討
親睦ゴルフコンペ	会場 宿舎懇親会 期日 人数/優勝			1回きぬがわ高原CC 曇 鬼怒川クラブホテル 90名 H7/5/28-29 大会29日 127名 団体・神奈川県	2回きぬがわ高原CC 雨 鬼怒川御苑 78名 H8/9/8-9 大会9日 114名 団体・東京都
事業年度	1998年度(平成10年度)	1999年度(H11年度)	2000年度(H12年度)	2001年度(H13年度)	2002年度(H14年度)
会長	田 英夫	田 英夫	田 英夫	田 英夫	田 英夫
出来事	1998/2/7-22長野オリンピック開催	日本スキー指導者協会に改称		社会体育指導者資格制度に会長が文部大臣に確認	
総会	会場 期日 内容	チサンホテル浜松町 H10/7/19 日本スキー指導者協会決定/規約改正	チサンホテル浜松町 H11/7/18 会計報告/行事案/規約改正/役員選出・SAJから独立?	チサンホテル浜松町 H12/7/15 会計報告/行事案・NPO化?・ホームページ開設案	チサンホテル浜松町 H13/8/5 会計報告/行事案/規約改正/役員選出・NPO化について
親睦ゴルフコンペ	会場 宿舎懇親会 期日 人数/優勝	3回アルツ磐梯メロウGC 雨 リゾートインアルツ 82名 H9/9/7-8 大会8日 大会113名/参加128/福島県	4回きぬがわ高原CC 霧 鬼怒川プラザホテル 60名 H10/9/6-7 大会7日 75名/東京都	5回きぬがわ高原CC 晴 鬼怒川プラザホテル 43名 H11/9/12-13 大会13日 58名/東京都	6回那須チサンCC 雨 りんどう湖リゾートホテル 62名 H12/9/10-11 大会11日 75名/神奈川県
みんなで行くSAJスキー大学	会場 宿舎 期日/人数				1回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H14/1/17-20 41名
SIJカップフェスティバル	会場 宿舎懇親会 期日 人数		SAJ	1回キロロスノーワールド ホテルピアノ/(マウンテン) H12/4/14-16 大会15日 大会145名/参加数357名	2回キロロスノーワールド ホテルピアノ/(マウンテン) H13/4/13-15 大会14日 大会160名/参加数296名

## SAJ指導員制度廃止に待った!!

## 今は亡き 田 英夫前会長の功績

SAJスキー指導員制度の危機＝文部省社会体育指導者資格制度の実施  
 決着をつけたのは日本スキー指導員会会長・参議院議員 田英夫  
**\*\*田英夫前会長の功績について30周年に当たり書き残しておきます\*\***  
 平成2年文部省社会体育指導者資格制度の実施でSAJの指導員制度が廃止を視野に、将来文部省(日本体育協会)が新制度への1本化へと動き、資格付与への移行が実施されました。その後、田会長の努力で文部省の圧力が止まり2本立でSAJの指導員は存続することとなり現在に至ります。  
 ◇ 会報16号「巻頭言」 文部大臣に確認 の一部を再掲します。◇  
 日本スキー指導者協会の仲間の皆さんに、改めて文部省の社会体育指導員制度と、私たちの全日本スキー連盟の指導員制度についての最近の国会での議論をご報告しよう。去る平成12年(2000年)9月6日の参議院決算委員会、この日は平成10年度の文部省関係決算が議題。私は決算とは直接関係ないが文部省の提起した社会体育指導員制度は、スキーには適用しない欲しいという従来からの主張を改めて取り上げた。というのは今夏の日本スキー指導者協会の総会の折に、北海道から「最近も文部省や体協から社会体育指導員制度についての広報パンフレットが配られている」との指摘があったからである。以下は、この日の速記録から一部を引用。  
 田＝今日は大島文部大臣とスポーツ談義をしたいと思うんですが、国会と言うところは、実はスポーツのことを取り上げる場が非常に少ない。文教委員

会が唯一の場といえるかもしれません。(中略)私はスポーツというのは「苦しいもの」と思っています。私はスキーをやっている、全日本スキー連盟の指導員、準指導員の会の会長をやっています。ところが最近若者がスキー場に行かなくなった。スキー学校も昔はバスを連ねて参加したのに、最近は若者が集まらない。何故でしょう。若い人たちは苦しい本当のスポーツを我慢してでもやるという気がないんでしょうか。これは教育の問題です。  
**大島文部大臣**＝私の次の世代くらいから、大学の体育会系がだめになって参りまして同好会が増えてきた。それが最近田先生がいまおっしゃったようになってきたんだと思います。(中略)  
 田＝以前に小杉文部大臣のときに私からお願いをしてスキーについては文部省の提起の指導員制度は適用しないということを明言していただきたい。スキー連盟の皆様は大変純粋ですから文部省からの提起を「お上(かみ)から言われたことですから従わなければなりません」と受け止めている人ですが、スキーにはもう70年の歴史のある立派な指導員制度が確立していますから(文部省提起の制度は)必要ないのです。  
 大島文部大臣からこの点を改めて確認していただきたい。  
**大島文部大臣**＝小杉大臣がお答えしたことは今も変わっておりません。  
 田＝その一言を指導員の友達に伝えたと、彼らは安心して、これからは活動すると思います。  
 以上のやりとりがあったことを皆さまに紹介しておきたいと思います。



# 30th ANNIVERSARY

## 日本スキー指導者協会 2003～2008年度の出来事・会議・行事(年表)

事業年度		2003年度（平成15年度）	2004年度（平成16年度）
会長		田 英夫	田 英夫
出来事		H14/11/20スクワール麹町・創立20周年記念行事	初めて仙台で幹事会実施
第1回常任幹事会/総会	会場/期日 内容	チサンホテル浜松町（H14/8/4） 前年度報告・本年度行事決定/20周年行事決定	チサンホテル浜松町（H15/8/2） 前年度報告・本年度行事決定/役員改選
第2回常任幹事会	会場/期日 内容	チサンホテル浜松町（H14/6/2） 今年度報告・来年度行事案/20周年行事案	仙台 ホテル法華クラブ仙台（H16/5/22） 今年度報告・来年度行事案/規約改正案/SIJカップについて
親睦ゴルフコンペ	会場 宿舎 期日/人数 優勝	8回那須チサンCC 雨/曇 りんどう湖ロイヤルホテル 懇親会51名 H14/10/6-7 大会7日 大会53名/参加者数55名 団体/東京都	9回きぬがわ高原CC 晴 きぬがわ高原CC 懇親会55名 H15/9/7-8 大会8日 大会59名/参加者数69名 団体/東京都
ランクアップスキー教室	行事名 会場 宿舎 期日/人数	ランクアップスキー教室 奥志賀高原スキー場 スポーツハイム奥志賀 H14/12/14-15（神奈川のみ参加）43名	ランクアップスキー教室 奥志賀高原スキー場 スポーツハイム奥志賀 H15/12/13-14（神奈川のみ参加）47名
みんなで行こうSAJスキー大学	会場 宿舎 期日/人数	2回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H15/1/16-19 19名	3回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H16/1/16-18 36名
インタースキー	行事名 会場 期日/人数	インタースキー総会ツアー スイス・モンタナ H15/1/18-26 20名	—
SIJカップフェスティバル	会場 宿舎 期日/人数	4回ニセコ東山スキー場 ニセコ東山プリンスホテル 懇親会150名 H15/4/11-13大会14日132名/参加者数169名 濃霧GS中止	5回ルスツリゾートスキー場 ルスツリゾート ホテルノースウイング 懇親会86名 H16/4/9-11 大会75名/参加者数122名
事業年度		2005年度（平成17年度）	2006年度（平成18年度）
会長		田 英夫	田 英夫
出来事		初めて横浜で幹事会実施 H16/10/14西日本ブロック脱会申出	
第1回常任幹事会/総会	会場/期日 内容	チサンホテル浜松町（H16/7/31） 前年度報告・本年度行事決定/規約一部改正/先輩指導員功労称号にいて/西日本脱会保留	チサンホテル浜松町（H17/8/7） 前年度報告・本年度行事決定/役員改選/西日本脱会調査について
第2回常任幹事会	会場/期日 内容	横浜 英一 番館横浜（H17/5/28） 今年度報告・来年度行事案/西日本脱会調査	赤坂プリンスホテル別館3階 英一 番館（H18/5/27） 今年度報告・来年度行事案/西日本脱会慰留について
親睦ゴルフコンペ	会場 宿舎 期日/人数 優勝	10回那須チサンCC 雨 りんどう湖ロイヤルホテル 懇親会53名 H16/10/2-3 大会3日 大会64名/参加者数69名 団体/福島県	11回岡部チサンCC岡部 晴 チサンホテル深谷 懇親会なし H17/9/19 大会19日 大会94名/参加者数98名 団体/東京都
みんなで行こうSAJスキー大学	会場 宿舎 期日/人数	4回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H17/1/7-10 31名	5回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H18/1/6-9 8名
SIJカップフェスティバル	会場 宿舎 期日/人数	6回キロロスノーワールド 懇親会94名 ホテルピアノ H17/4/8-10 大会105名/参加者数163名	7回キロロスノーワールド ホテルピアノ H18/4/7-9 参加人数少なく中止
事業年度		2007年度（平成19年度）	2008年度（平成20年度）
会長		田 英夫	田 英夫
出来事			H20/1/5新潟県脱会申出
第1回常任幹事会/総会	会場/期日 内容	チサンホテル浜松町（H18/7/30） 前年度報告・本年度行事決定/役員改選/西日本脱会慰留について	ルポール麹町(麹町会館)（H19/7/21） 前年度報告・本年度行事決定/役員改選/西日本脱会とは 静観・顧問弁護士委託
第2回常任幹事会	会場/期日 内容	ホテルアジュール竹芝（H19/5/19） 今年度報告・来年度行事案/顧問弁護士委託について	スクワール麹町（H20/6/7） 今年度報告・来年度行事案
親睦ゴルフコンペ	会場 宿舎 期日/人数 優勝	12回那須チサンCC 雨 ラ・モンターニュ那須 懇親会54名 H18/9/17-18 大会18日 大会93名/参加者数98名 団体/岩手・埼玉連合	14回那須チサンCC 晴 ラ・モンターニュ那須 懇親会52名 H19/9/16-17 大会17日 大会76名/参加者数82名 (13回H19/6は中止) 団体/東京都
みんなで行こうSAJスキー大学	会場 宿舎 期日/人数	6回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H19/1/11-15 14名	7回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H20/1/10-14 16名
インタースキー	行事名 会場 期日/人数	インタースキー総会ツアー 韓国・ドラゴンパレー H19/1/27- 環境整わず中止	
SIJカップフェスティバル	会場 宿舎 期日/人数	8回白馬八方尾根 刈岳館 懇親会・スキースクール H19/4/7-8 大会8日 大会51名/参加者数55名	9回白馬八方尾根 刈岳館他 懇親会・スキースクール H20/4/12-13 大会13日 大会69名/参加者数78名

# 30th ANNIVERSARY

## 日本スキー指導者協会 2009～2014年度の出来事・会議・行事(年表)

事業年度	2009年度（平成21年度）	2010年度（平成22年度）
会長	田 英夫	坂本祐之輔
出来事	H20/8/12群馬県脱会申出	坂本祐之輔新会長就任
第1回常任幹事会/総会	会場/期日 ルポール麴町 (H20/7/27) 内容 前年度報告・本年度行事決定/新潟脱退説明/組織の再討議へ	スクワール麴町 (H21/7/26) 前年度報告・本年度行事決定/役員改選・新会長に坂本祐之輔
第2回常任幹事会	会場/期日 スクワール麴町 (H21/5/24) 内容 今年度報告・来年度行事案/現会長退任意向	仙台 ホテル白萩 (H22/5/29) 今年度報告・来年度行事案
親睦ゴルフコンパ	会場 15回富貴ゴルフ倶楽部 晴 内容 懇親会なし 期日人数 H20/9/9 大会62名/参加者数66名 優勝 団体/埼玉県	16回那須チサンCC 晴 那須チサンCC 懇親会58名 H21/10/11-12 大会12日 大会85名/参加者数91名 団体/福島県
みんなで行こうSAJスキー大学	会場 8回朝里川温泉スキー場 内容 朝里クラッセホテル 期日人数 H21/1/8-12 16名	9回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H22/1/7-11 15名
SIJカップフェスティバル	会場 10回ルスツリゾートスキー場 内容 ルスツリゾートホテルノースウイング 期日人数 H21/3/27-29 参加人数少なく中止	11回車山高原スキー場 スカイパークホテル H22/4/3-4 雪不足のため中止

事業年度	2011年度（平成23年度）	2012年度（平成24年度）
会長	坂本祐之輔	坂本祐之輔
出来事	H23/3/11東日本大震災発生	
第1回常任幹事会/総会	会場/期日 シーサイド芝弥生 (H22/8/8) 内容 前年度報告・本年度行事決定/規約全面改正	スクワール麴町 (H23/7/9) 前年度報告・本年度行事決定/役員改選
第2回理事会	会場/期日 スクワール麴町 (H23/5/28) 内容 今年度報告・来年度行事案	スクワール麴町 (H24/5/26) 今年度報告・来年度行事案
親睦ゴルフコンパ	会場 17回那須チサンCC 晴 内容 那須チサンCC 懇親会54名 期日人数 H22/10/10-11 大会11日 大会76名/参加者数82名 優勝 団体/福島県	18回那須チサンCC 晴 那須チサンCC 懇親会53名 H23/10/8-9 大会9日 大会76名/参加者数81名 団体/埼玉県
みんなで行こうSAJスキー大学	会場 10回朝里川温泉スキー場 内容 朝里クラッセホテル 期日人数 H23/1/6-10 17名	11回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H24/1/5-9 19名
インター スキー	行事名 インタースキー視察 会場 オーストリア・サンアントン 期日人数 H23/1/15-23 18名	
SIJカップフェスティバル	会場 12回蔵王温泉スキー場 内容 五感の湯つるや 期日人数 H23/4/2-3 その他 参加人数少/震災で中止	13回白馬八方尾根 刈岳館 懇親会・スキースクール H24/4/7-8 大会7日 大会23名/参加者数31名

事業年度	2013年度（平成25年度）	2014年度（平成26年度）
会長	坂本祐之輔	坂本祐之輔
出来事		
第1回理事会/総会	会場/期日 スクワール麴町 (H24/7/21) 内容 前年度報告・本年度行事決定・30周年を事務局で検討	スクワール麴町 (H25/6/29) 前年度報告・本年度行事決定/役員改選/規約一部継続審議
第2回理事会	会場/期日 内容 衆議院第2議員会館 (H26/6/3) 前年度報告・本年度行事案/規約改正案	
親睦ゴルフコンパ	会場/期日 19回那須チサンCC 晴 内容 那須チサンCC 懇親会32名 期日人数 H24/10/13-14 大会14日 大会57名/参加者数63名 優勝 団体/福島県	20回那須CC 晴 那須CC 懇親会40名 H25/10/13-14 大会14日 大会59名/参加者数64名 団体/福島県
みんなで行こうSAJスキー大学	会場 12回朝里川温泉スキー場 内容 朝里クラッセホテル 期日人数 H24/12/20-24 18名	13回朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル H26/1/9-13 8名
SIJカップフェスティバル	会場 14回キロスノーワールド 内容 ホテルピアノ 期日人数 H25/4/12-14 4名 その他 デモと滑ろうに変更	白馬八方尾根 刈岳館 懇親会・刈岳館 H26/4/12-13 25名 懇親スキー

# 30th ANNIVERSARY

## 写真記録 会議関係



H18/5/27 常任幹事会赤坂プリンス  
田英夫会長挨拶



会議風景



懇親会での北海道挨拶



H22/5/29 第2回常任幹事会 仙台ホテル白萩



H22/8/8 H23年度総会・サイト・ホテル芝弥生  
坂本祐之輔会長挨拶



懇親会風景



# 30th ANNIVERSARY

## 写真記録 行事関係

H17/4/8-10 第6回SIJカップフェスティバルキロロ ホテルピアノ



4/8小樽ナイトツアー青塚食道夕食



4/9大回転前走阿部副会長



4/9夜懇親会役員紹介と

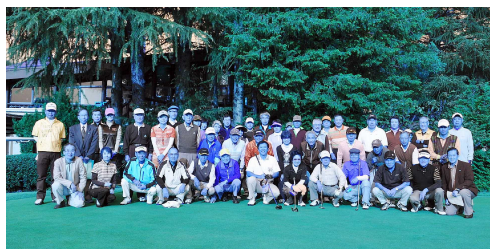
H21/1/9-12 第8回みんなで行こうSAJスキー大学



4/9夜懇親会函館  
永谷選手日舞



10/8の前夜祭懇親会



出陣前の開会式記念撮影

H24/4/7-8 第13回S. I. J. カップ  
フェスティバル白馬



イザスタート



結果や如何に

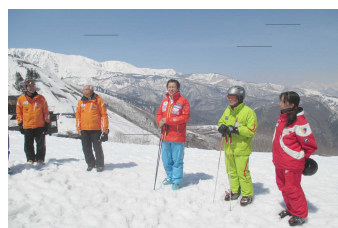


丸山庄司名誉顧問の前走



張り切る選手たち

H26/4/12-13  
S. I. J. 懇親スキー  
フェスティバル白馬



## 【北海道】北海道スキー指導者協会

北海道スキー指導者協会 会 長 藤島 勝雄

## 北海道スキー指導者協会の活動報告

## 1、ベテラン指導者研修会

本協会は昭和27年創立当初から、当時で言う“政・指分離”の考え方「あくまでも親睦団体であって、会員相互の親睦をはかる」ことを目的に設立され、現在まで受け継がれてきました。

しかし、一昨年北海道スキー連盟教育本部協力団体を転機として、創立以来の“親睦”の枠に捉われずに幅広い活動を展開していくこととし、「ベテラン指導者研修会」を本年4月8日から2泊3日の日程で、ニセコグランヒラフスキー場にて開催しました。

「研修会テーマの習得」は当然のことですが「現在の最新の技術は？」も目的の一つで、講師として全日本スキー連盟のデモンストレーターとして活躍中の池田麻里さん、江島絵美さんをお願いしました。

両デモの技術選で培った力強く且つ華麗な滑りと熱心で的確な指導は、受講者一同を感動させ満足させるに充分でありました。

また、最近の巨大化した研修会規模とは一線を画して、合宿形式でこじんまりとしたアットホームな雰囲気な中での研修は、「親睦を図る」の目的も充分果たされたものと思います。

次年度以降も、ベテラン指導員の方々が参加し易く、参加者に高い評価が得られる研修会として継続開催していきたいと考えています。

## 2、北海道スキー指導者協会の集い・2014稚内大会

毎年恒例の集いは、本年7月4・5日最北の地“稚内”で開

催、全道各地から大勢の会員が参加されました。

①北海道スキー指導者協会藤島勝雄会長主催者挨拶

全道各地から大勢参加いただき感謝します。

本協会小栗宏前監事(稚内)急逝を報告します。

②北海道スキー連盟松本徹教育本部長祝辞

井山敬介デモ6年振り技術選“優勝祝賀会”主催のため欠席、祝辞が代読されました。

③稚内スキー連盟指導員会森岩松会長地元歓迎挨拶

④指導者制度制定75周年記念表彰

長年、指導活動に尽力され全道各加盟団体から推薦された指導員に表彰状が贈られました。

⑤記念講演

演題：100年にわたってつないできた物づくりの糧

講師：小賀坂スキー製作所社長小賀坂道邦氏

- ・1911年のスキー伝来の翌1912年、小賀坂濱太郎が40台のスキーを製作

- ・单板、合板、グラス&スチール、ケブラー等の芯材の変遷

- ・「芯材は木材に勝るものは無い」

- ・100年事業として、木に感謝し“森の里親制度”など、3代100年にわたる「最良の物づくり」の信念が熱く語られました。



第27回 北海道スキー指導者協会の集い・2014稚内大会



## 【岩手県】岩手県スキー指導員会 「祝創立30周年と岩手国体」

事務局長 石川 明

このたび「日本スキー指導者協会」が創立30周年を迎えられましたことに対しまして、まずもってお祝いを申し上げます。協会創立時から今日に至るまで、多くの諸先輩・関係者の方々のご努力により現在の姿があるものと存じその多大な功績に対しまして深く敬意を表するものであります。

日本スキー指導者協会が主催する各種事業は、スキー大学を始め広範囲にわたり、その企画や運営・実施には多くの時間と労力を投入して初めて成し遂げられるものであり、このように今日まで成果をあげられてこられたことにつきまして、あらためて感謝申し上げる次第でございます。

一方、私も岩手県スキー指導員会は、その前進である「岩手県一般スキー指導員会」が昭和37年に発足し、現在の指導員会は平成2年に誕生しております。以来、日本スキー指導者協会には種々ご指導を得ながら今日に至っているところであります。

当会におきましては、このたびの記念すべき節目をお祝いしつつ、また今後のご指導をお願いしながら、共に発展していくことを期待して参りたいと存じます。

さて、当県の話題といえば、昭和45年の「いわて国

体」から約46年を経て第二巡目の「いわて国体」が2016年に開催されます。

これまで、いわて冬季国体スキー競技会は幾度か開催されておりますが完全実施のこの年の岩手県は、冬季も夏季も様々な競技会により国民の関心は大きくうねり、当然スキー界も際だった盛り上がりを見せるだろうと今から期待しており、当指導員会としても国体の機運の高まりをさらに高揚すべく、指導員会事業の中に取り込めるものがあれば積極的に行い、県民一体となった運営を目指したいと考えております。

昨今の岩手県スキー指導員会においては、スノーボードの普及・発展に伴い会員に関する規約の一部を改正しながら会員確保に努め、事業面においては例年同様の内容に東日本大震災の復興に関する市町村スキー協会への補助事業を継続し、地域の活性化や会員相互の連携と情報交換などを重点に展開しております。

近年の傾向としては会員数が少しずつ減っていく中において、今何が必要で何が出来たかを共に考えながら、今後も円滑な運営を目指して参りたいと存じます。

事業名	期日等	実績等	経費（千円）
指導員会報の発行	2013.12	800部印刷 会員配布	263
全日本技選・選手団補助	2014.03	選手11名 監督 コーチ等	200
県連スキーメモ購入配布	2013.12	会員787人分	1,574
指導員研修会事業	2014.02	県連共催	30
会員親睦事業	2013.08	ゴルフc p、SAJ研修会飲料類提供	33
会議関係	2013.10～	各種会議経費	148
被災地支援事業	2013.12～	3団体（7団体対象）	60
事務費・予備費	2013.10～		19
合計			2,327

次の写真は、9月6日（土）に実施しました親睦交流ゴルフコンペの参加者の皆さんです。今年度は、県内各方面から40名近い方々のご参加をいただき、広く交流を深めることができました。大会成績は当会の会報に掲載し全会員に配布するほか、地元有力紙の新聞スポーツ欄にも載せてPRする予定です。



親睦ゴルフコンペ 会場：盛岡CC

## 【宮城県】宮城県スキー指導員会

宮城県スキー指導員会会長 半沢 進

日本スキー指導者協会が創立30周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

1984年11月に「日本スキー指導員会」として発足、1988年に「日本スキー指導者協会」と名称を変更し今日に至るまで田英夫氏（名称変更後の初代会長）菅秀文氏（現名誉会長）をはじめ、坂本祐之輔氏（現会長）を中心に多数のスタッフにご尽力で全国のスキー指導員会を支えてこられたことに、心から感謝申し上げます。

今後40周年、50周年に向けて日本スキー指導者協会のますますのご活躍とご発展を祈念いたします。

さて、宮城県スキー指導員会は、宮城県スキー連盟と連携しながら指導員の育成と資質の向上並びに親睦の輪を図っております。今年度は、2年ぶりに海外スキー研修を平成27年2月に行う予定で、準備を進めております。また、本会のさらなる発展に、寄与していただきたく、前副会長の青沼幸男氏が顧問に就任されました。

下記に平成27年度事業計画をお知らせいたします。

## 平成27年度 事業計画

H26. 8. 23

No.	年月日	事業名	場所	備考
1	H26. 8. 23 (土)	総会	ホテル白萩	第1回役員会実施
2		講演会		スキー連盟80周年記念事業
3		交流会		スキー連盟80周年記念事業
4	H27. 2上旬～中旬	海外スキー研修	計画準備中	希望者は半沢会長へ連絡
5	H27. 2. 22 (日)	スキー・ボード準指 合格者入会受付	スキー： ボード：	泉ヶ岳スキー場
6	H27. 5 ( )	日指幹事会	東京	会長参加予定
7	H27. 6 ( )	第2回役員会	野村コミュニティセンター	
8	H27. 7 ( )	県連ゴルフ大会協賛	未定	仙塩地区担当
9	H27. 7 ( )	日指総会	東京	会長参加予定

## 各種支援・協賛

- 1 東北ブロック研修会（ブロック技術員等）参加者への支援
- 2 仙北・仙塩・仙南ブロックへの講習会支援
- 3 正指導員受検者への支援（@5,000円）
- 4 日指ゴルフ大会支援…平成26年10月18・19日 場所：那須チサンカントリー 参加者：未定
- 5 東北マスターズ大会支援（基礎）（本県開催時）

## 平成26(2014)・27(2015)年度 宮城県スキー指導員会役員一覧(改訂版)

任期 2013.8.1～2015.7.31

	役 職	氏 名	所属クラブ
1	顧 問	青沼 幸男	古川スキー協会
2	会 長	半沢 進	ダイナミックスキークラブ
3	副会長	保原 政美	石巻スキー協会
4	〃	高田 潤一	仙台市スキー協会
5	特別幹事	千葉栄一郎	宮城県スキー連盟教育本部長
6	幹事長	山口 昭一	仙台市スキー協会
7	幹 事	武田 善晴	仙台市スキー協会
8	〃	高山 弘	サンコースキークラブ
9	〃	佐々木英信	仙台スキー研究会
10	〃	大宮 敏夫	仙台アルペンクラブ
11	〃	山内 光一	仙台市スキー協会
12	〃	佐藤 久	仙南スキークラブ
13	〃	玉田 芳治	ダイナミックスキークラブ
14	〃	若森 誠二	川崎スキークラブ
15	〃	及川 修	蔵王スキー協会
16	〃	新山 秀夫	七ヶ宿スキークラブ
17	〃	原田 賢一	ゴールドエンスキークラブ
18	〃	千葉 秀幸	鳴子温泉スキー協会
19	〃	高橋 洋	色麻スキークラブ
20	〃	中鉢 悟	古川スキー協会
21	〃	遠藤 金生	岩出山スキークラブ
22	監 事	北田 勲	ミットスキークラブ
23	〃	高橋 秀雄	宮城蔵王スキークラブ
24	〃	片倉 敏明	迫スキークラブ

※ 事務局…ダイナミックスキークラブ

## 【栃木県】栃木県スキー指導員会

栃木県スキー連盟 副会長 石塚光男

日本スキー指導者協会創立30周年おめでとうございます。

私が所属している栃木県スキー連盟には、指導員会組織は無いのですが、故綱川副会長に勧められて北関東ブロック会議で承認され数年前から日本スキー指導者協会の役員としてお世話になっています。

40年近く前になりますが、県連所属団体に栃木スキー協会がありました。協会には11～12のスキークラブが加入していましたが、当時はほとんどのクラブに指導員資格者が居ませんでした。けれどもスキー講習会、教室の行事も多く、またバッジテストの開催希望も多くて受験者も大勢居ました。指導員は、引っ張りだこでした。そこでスキー協会の組織の中に有資格者を会員とする指導員会を作ったのです。協会の組織としては、競技部、普及部、総務部、指導員会で構成し、指導員会は独立採算として会員の会費と謝金で運営し会計監査も受けました。指導員会の活動としては指導員の派遣、バッジテストの開催、後進の育成、そして最も力を入れてたのがスキー技術の向上でした。そのため外部講師をお願いして実技指導、理論研修等を実施しました。仲間みんなでいろいろなスキー場に行き指導を受けるのも楽しみの一つでした。最盛期には1シーズンに指導者の派遣数は延べ200人位で、指・準指導員受験者が10名位（受験者チームとして活動していた）バッジテスト開催が6回位あったと記憶しています。今思えば非常に充実した

活動をしていました。

20年位前だったと思いますがS I J会報に「真向法でトレーニング」というような記事をみました。写真を見て驚き自分もやってみようと思い少しずつ始めました。スクワットや他のストレッチもいろいろおりまぜながら続けてきたら写真の様に出来るようになりました。お陰様で73歳の今年の5月の下旬に富士宮から富士山に登って快適なスキー滑降を楽しむことが出来ました。これからは足腰の立つうちは仲間と山とスキーを楽しみながら、スキー指導者協会、県スキー連盟そしてスキークラブのお役に少しでも立てればと思っています。



## 【埼玉県】埼玉県スキー連盟

埼玉県スキー連盟会長 高橋 哲男

## 新役員就任のご挨拶

去る6月7日開催の臨時評議員会において、新役員が選任され、それぞれ就任いたしました。

つきましては、私ども、この新役員のもと会員一丸と

なりより一層のスノースポーツの発展に寄与する所存ですので、今後とも変わらぬご支援、ご鞭撻をたまわりますよう、謹んでお願い申し上げます。

会 長	高橋 哲男	理事長	石田 和吉
副会長	岩澤 修	副理事長	渡辺 好夫（総務本部長）
副会長	大藤 雅史	副理事長	鈴木 勉（教育本部長）
		副理事長	渡辺 雅則（競技本部長）

監 事	荒木 章
監 事	森本 剛
監 事	武井 勉
監 事	井出 徹

\*\*\*\*\*

## 【埼玉県】埼玉県スキー指導員会

埼玉県スキー指導員会会長 福田真人

埼玉県スキー指導員会では、昨シーズンも会員相互の交流を図り、親睦を深める事を目的に、懇親スポーツ大会、懇親ゴルフコンペの2行事を開催しました。懇親スポーツ大会は昨年同様ノルディックウォークを開催しました。5月31日（土）新緑のときがわ町の自然の中、全日本ノルディックウォーク連盟公認指導員の指導により約2時間歩きました。高低差、距離等、適度な設定のコースでしたので、参加者それぞれが思い思いの会話を楽しみながら、適宜指導を受け、楽しく歩く事が出来ました。また、ウォーク終了後のバーベキューでは、広く交流が図られ、楽しいひと時となりました。

懇親ゴルフコンペは7月3日（木）、下仁田カントリークラブに於いて、梅雨の晴れ間を願って開催されました。

参加者の願いがかなったのか、快晴とまでは言えないものの絶好のゴルフ日和に恵まれ、教育部員、スキー場、宿舍会の皆様が懇親を深めながらプレーを満喫し、怪我等の事故も無く、コンペは無事に終了しました。プレー終了後のパーティーでは、珍プレー、好プレーを“つまみ”に、会話が弾み、成績発表及び賞品授与で一喜一憂しながら、時が経つのも忘れて楽しみました。

指導員会では、今後も、会員の皆様のご意見ご要望に応えるべく、会員皆様の親睦を深め、交流を図る行事を実施してまいります。また、ジュニア、シニア向けの行事にも取り組みますので、会員の皆様のご指導とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



2014年度 埼玉県スキー指導員会 懇親スポーツ大会「ノルディック・ウォーク」  
期日：平成26年5月31日（土） 開催地：ときがわ町



### 【千葉県】千葉県スキー指導員会

副会長（広報担当）奥住 公夫

千葉県スキー指導員会は関係各位のご支援により昨年結成40周年を迎えました。今後ともさらにご指導、ご鞭撻賜りますようよろしくお願い申し上げます。

<平成27年度 主たる事業>

- (1) 総会並びに懇親会（11月）
- (2) ステップアップ講習会10周年記念行事（1月、1泊2日、スキー技術向上のための講習会。小樽）
- (3) 準指検定会支援
- (4) 親睦ゴルフ大会（8月）
- (5) 指導員バンク（指導者を各スキースクールへ派遣）
- (6) 会報発行（40周年記念誌として制作中）
- (7) ネームプレート製作・販売
- (8) SIJ総会・幹事会・行事等参加

く今後の課題>

- (1) スキー指導者の使命は、スキー指導技術はもとより指導者としての資質、即ち専門性や人間性を高めていくために諸行事を通して、また県内外の指導者と連携し合うことで培われることの理解を深める。
- (2) 県連と連携をさらに深め、事業や人事面での協力体制をさらに強化する。
- (3) 会費を1000円とする（従来1500円）
- (4) SIJとの連携を深める中で、全国はもとより世界のスキー情報を入手し、会員の資質向上に資する。



ステップアップ講習会

## 【東京都】特定非営利活動法人東京都スキー指導者協会

理事長 和田 守義

## 指導者協会の役割は？

今年も新年度の事業計画を立てる時期になりました。昨シーズンも、いくつかの新しく企画した行事を行いました。その実施後の検討会では、いろいろな課題が指摘されました。

例えば、オフピステのスキーツアーでは、参加申込者の個々の技量やニーズに大きな幅があり、企画した側の意図と参加者の期待との微妙なずれを感じました。オフピステの場合、やはり安全性を確実にしながら、スキー本来の爽快感、多様性を実現していくのは主催する側の責任であろう。同時に、スキー場運営管理者の側の配慮や協力も欠かせない。日本のスキーを楽しむための工夫、知恵を出し合いたい。

もう一つ、指導員研修会受講の子連れの子連れ者に対する子供スキー教室の開催は好評でした。義務化されている指導員研修

会ですが、子育て中の親にとって、とても精神的に負担になっていると思います。指導者協会が都連主催の研修会とスケジュールを連動させて子供スキー教室を開催すれば、研修参加者は安心して研修に専念できる。指導員研修会の参加者が減少する中、少しでも参加しやすい環境作りに貢献できれば、と考えます。毎年、新しい企画に取り組む中、指導者協会会員の活躍を後押しするためには、どのように事業展開をするのか、東京都スキー指導者協会本来の役割あるべき姿は、と自問自答する日々です。

## 平成27年度行事要項

	事業名	実施時期	実施場所	備考
1	平成27年度 秋の体力づくりの会	H26. 11. 1 ～11. 2	白馬五竜スキー場	スキーシーズン通して存分に活躍できる 体力づくりと指導員相互の親睦を図る
2	スキー理論講座	H26. 11. 14 (金) 予 定	なかのZERO	SAT教育本部専門員による理論講座で スキー教程等の理解を深める
3	北海道初滑りスキー研修会時 親睦会	H26. 12. 5 (金)	北海道 小樽「魚真」	シーズン初めの北海道に集いスキー談義に 華を咲かせ、旧交を温める
4	北海道初滑りスキー研修会	H26. 12. 4～12. 7	北海道 キロロリゾート	ナショナルデモと一緒に初滑り 今シーズンのスタートは雪質抜群の北海 道 キロロスノーリゾートで
5	準指導員検定合格のための 特別研究会Ⅰ	H26. 12. 20～12. 21	菅平高原スキー場	準指導員検定合格に向けて苦手克服と 基本からじっくりとトレーニング
6	キッズ&ジュニア スキー教室Ⅰ	H26. 12. 20～12. 21	菅平高原スキー場	子供同伴で研修会に参加する指導者のため その子供を対象にスキー教室を開設
7	指導員検定合格のための 特別研究会Ⅱ	H27. 1. 17～1. 18	菅平高原スキー場	SAT教育本部専門員による準指合格の ためのトレーニング
8	プライズテスト合格 のための特別研究会	H27. 1. 17～1. 18	菅平高原スキー場	主にテクニカル、クラウンを目指す方を 対象にハイレベルなトレーニングを実施
9	準指導員検定合格のための 特別研究会	H27. 1. 31～2. 1	戸狩温泉スキー場	指導員検定合格に向けたトレーニングを 指導員検定に実績のある地元講師が指導
10	プライズ・テスト	H27. 2. 7～2. 8	菅平高原スキー場	テクニカルとクラウンのプライズテストを行う
11	オフピステ スキーツアー	H27. 2. 7～2. 8	かぐらスキー場	グレンデだけでは物足りない！そんなスキー ヤー対象のオフピステスキーツアー
12	リッチーベルガー テクニクキャンプ	H27. 2. 28 ～3. 1 予 定	白馬五竜スキー場	恒例となったリッチーテクニカルキャンプ どんなシチュエーションでもエレガントに 滑れるテクニクをあなたも！
13	都連クラブ対抗競技会 支援事業	H27. 2. 28～3. 1	菅平高原スキー場	クラブを代表する競技大会出場選手及び サポーターに暖かい飲物などを提供し、大会を 大いに盛り上げる
14	準指導員検定会支援事業	H27. 3. 7～8	菅平高原スキー場	準指検定に受検する方々に温かい飲物等 を提供してリラックスして十分実力を発揮して 受検できるようサポート
15	指導者協会	H27. 3. 14～3. 22	オーストリア ゼルデン	2つの氷河滑降、エッツタール最奥のオーバーグ ルグル、スイス国境越えのできるイシュグルな どヨーロッパスキーを満喫
16	指導員、準指導員検定	H27. 4 予 定		今年度、指導員、準指導員に合格した方々と合 格を祝い、スキー指導員間の連帯感を

特定非営利活動法人東京都スキー指導者協会ホームページ URL <http://www.ski-instructors-tokyo.jp/>

# 【神奈川県】 神奈川県スキー指導員会 神奈川県スキー指導員会30周年・その活動状況ご紹介

副会長 藤木 昇

## 1. 神奈川県スキー指導員会の活動経緯

神奈川県スキー指導員会は、今年で新生30周年を迎えます。神奈川県スキー連盟の有資格者約2200名中、約900名の正会員と100名程の賛助会員(一般スキーヤー)での構成ですが毎年減少傾向です。指導員相互の親睦と資質の向上、スキー界の活性化に寄与するための活動を目的とした任意参加団体です。

10年程前までの行事は神奈川県スキー連盟から委託された指導者養成講習会、関連した競技会、クラウン・テクニカル検定、一般スキーヤー向け大会等と、指導員会行事の夏期懇親会、ゴルフ大会、納会のスキーフェスティバルでした。その後資格付与行事は委託解除となりました。

会員の減少が顕著になり、立て直す為に次々と新しい行事を増やしてきました。オフシーズントレーニング、プロスキーヤーに教わる初滑り、温泉とスキーとバス付きの平日中心の高齢者向き激安スキー、フェスティバルの楽しさ倍増アトラクションなど、この10年は色々と模索実施して現在に至ります。行事が多すぎて大変との声もありますが、なんとか「楽しいスキーで引きこもるスキーヤーを雪上に」との思いで指導員養成は神奈川県スキー連盟にまかせ、高齢者から家族連れ、子供達までの行事を実施してい

ます。仲間が少しでも増える様にとの思いです。

スキー人口減に悩む神奈川県スキー連盟も指導員会の活動を評価して行事の後援だけでなく、共催の形でお互いに協力し、研修会の一部としてフェスティバルも取りこんだ形となりました。

研修会参加の指導員が子供も連れて楽しく参加できる場を作ったつもりです。

私共の活動が皆様のご参考になれば、雪なし県同士のスキーヤーとして幸いです。

## 2. 来シーズンの行事予定《以下雪なし県会員に対するメッセージと行事予定表です》

「今年も多くの行事を計画しました。いずれも役員のボランティアでの執行です。バスの雪上行事を多く企画しました。車が無くても参加できます。(他の行事も乗用車乗合を調整します。)日程的には週末行事と平日行事、そのミックスとご用意しています。いずれも、当指導員会の役員が引率指導しますので初めての方でも安心です。どうぞ、ご家族、ご友人お誘い合わせの上ご参加ください。当指導員会はスキーに行くお手伝い、滑るお手伝い、スキーの魅力を感じていただくお手伝い、そして、皆さまの結びつきのお手伝いを今年も行なって参ります。

## 神奈川県スキー指導員会 2014-2015行事予定

行事	行事名	期日	
0.	2014(平成26年)総会・懇親会(NEC玉川)	H26/ 8/30	
1.	第89回親睦ゴルフコンパ(秋季大会)(上野原)	H26/10/23	
2.	奥志賀高原スリッパセー(7.0に学ぶ初滑り)	H26/12/ 6- 7	
3.	野沢温泉とスキーの歴史を訪ねる旅(バスツアー)	H27/ 1/25-27	30周年記念
4.	第34回オール神奈川スキー大会(八海山麓)	H27/ 2/ 7- 8	前日練習、2日目GS 2本
5.	ハタマツと塩原と温泉の旅(バスツアー)	H27/ 2/15-17	
6.	インゾイスキーin小海(バスツアー実施)(バスツアー)	H27/ 2/26-28	
7.	エテルワイス&ハタマ&塩原温泉の旅(バスツアー)	H27/ 3/14-16	
8.	第30回指導員会フェスティバル (公財)県スキー連盟車山IVコホ行事/指導員研修会	H27/ 3/28-29	フェスティバル参加で研修会扱
9.	第90回親睦ゴルフコンパ(春季大会)(上野原)	H26.5/22	
A	日帰りゾエアスキー雪とのふれあい体験教室1 (富士見パノラマバスツアー)講師派遣	H27/ 1/17	スノーヴァ新横浜コホ行事
B	日帰りゾエアスキー雪とのふれあい体験教室2 (富士見パノラマバスツアー)講師派遣	H27/ 3/ 7	スノーヴァ新横浜コホ行事
C	八方温泉と春スキー・SIJフェスティバル行事	H27/ 4/11-12	日本スキー指導者協会行事とコホ



第34回オール神奈川スキー大会



インゾイスキーin小海



エテルワイス&amp;ハタマ&amp;塩原温泉の旅



第30回神奈川県スキー指導員会フェスティバル

詳細は神奈川県スキー指導員会のホームページ URL <http://sik.arts-k.com> をご覧ください。

「神奈川県スキー指導員会」で検索していただいても表示されます。



## (公財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

## 平成27年度 第1回 理事会 議事録

日時 平成26年6月1日(日) 14:00～15:00  
場所 衆議院第2議員会館 会議室  
〒100-0014 東京都千代田区永田町 2-1-2

出席者(名簿順敬称略) 13名 委任5名(理事のみ)  
委任※印3名は理事以外

会長 1 坂本祐之輔  
副会長 4 半沢 進 渡辺 忍 山崎一正 榎本勝雄  
特別理事 1 増田千春  
理事 7 吉田勇夫 鈴木勘重 阿部隆郎 石塚光男  
和田守義 水島秀夫 藤木 昇/事務局長

委任 5 藤島勝雄 古賀澄夫 福田真人 佐藤昭藏  
奥住 公夫  
※榎本建司(監事) ※巻坂伸治(監事)  
※菅原哲朗(顧問弁護士)  
新井臣一(副理事長)

欠席 事務局 3 高橋イキエ 水島三千夫 井駒利一  
理事会の成立

水島理事長より本日の理事会は、総数19人に対し委任を含め18人で定足数を満たしており有効に成立した旨報告

- 開会の辞 半沢 進副会長
- 会長挨拶 坂本祐之輔会長  
日指が創立30周年を迎えることができた、長年にわたりご支援 いただいた方々に心より敬意と感謝を申し上げます。また、新たな一歩を踏み出せるよう皆様方に更なるご支援をお願い申し上げる次第です。  
ご多忙のところご出席いただいた増田特別理事に謝意、そして本日の会議が実りあるものになるようお願いして挨拶とします。
- 議長選出 坂本祐之輔(会長)を選出
- 書記任命 水島三千夫(事務局)を任命
- 議事録署名人選出 吉田勇夫(理事) 石塚光男(理事)を選出
- 議事運営の確認水島理事長より、第1回理事会資料により確認
- 平成26年度概況報告
- 議長の指名により、藤木理事より一般報告(会議、事業別)をした。質疑は特になく了承された。
- 議長の指名により増田特別理事よりSAJ報告をした。
  - ソチ冬季オリンピックメダリストと入賞者、メダル獲得数(7個史上最多)報告
  - 各行事は滞りなく終了したが、天候(大雪)による中止などに危機管理対応策について検討課題となっている。
  - 検定会受検者数の傾向について、資料により説明
  - SAJ会員登録加入状況について、減少が続いているなど資料により説明
  - 平成27年度教育本部事業カレンダー案については、決定ではないので取扱い注意
- 議長の指名により藤木理事より会議、事業、本部会計収支報告をした。  
平成26年度本部会計決算で支出の部の通信費に2,952円の加算修正とそれに伴う支出合計額増、予備費減の修正について報告。合計額については変更なし。  
以上の報告について質疑は特になく了承された。

## 8. 審議事項

- 議長の指名により藤木理事より平成27年度事業計画案及び予算案について説明。  
審議の結果以下のとおり了承された。
  - 第21回SIJ親睦ゴルフ大会(秋季)  
会場は、鬼怒川方面の代替案を含め審議した結果、那須カントリークラブに決定。  
日程を10月18日(土)、19日(日)で6/28総会までに事務局にて予約確認する。
  - 会報の発行時期と広告について  
発行時期は、記念祝賀会(11/9)に合わせ11月上旬に決定  
広告料は、裏表紙A4(2万円)、裏表紙内側A4(1万円)、その他(5千円)モノクロ印刷とし広告主については、今後、各理事にて開拓する。
  - SIJ親睦スキーフェスティバルの会場について審議した結果、白馬八方尾根スキー場に決定。
- 議長の指名により藤木事務局長より総会について「平成27年度総会開催のご案内第2報」に基づき説明した。

開催日:平成26年6月28日(土)

総会 11:30～12:30

懇親会 12:45～14:30

会場:スクワール麹町

- 議長の指名により水島理事長(実行委員長)より創立30周年記念祝賀会について、拡大事務局会議でまとめた計画素案(下記)を提案し了承された。

(1) 期日 平成26年11月9日(日)  
15:00～18:00(3時間)

(2) 会場 スクワール麹町

(3) 計画素案の策定

30周年は、20周年からの10年間を中心に、SIJの現状を勘案して組織の結束を強めることに主体をおいたアットホームな企画にすることを確認し内容については、今後実行委員会にて具体化していくことにした。

## 【主な確認事項】

- ①会費:10,000円
- ②規模:総員70名(招待者20名 役員・会員50名)
- ③予算:会場費、飲食、案内状等の必要経費と記念事業に使える費用(アトラクション等)については事務局で試算。
- ④表彰:感謝状のみとし表彰は行わない。  
対象は10年間のSIJ役員名簿から事務局にて次回までに候補者をリストアップする。(物故者を含む)  
なお、感謝状はクリアファイル(記念表示)に入れて渡す。
- ⑤記念品は記念誌のみ
9. 提案事項
  - 1) 各県提出書類による案件について  
特になし。
  - 2) その他  
規約改正について、和田守義(理事)より委員会の発足と主な改正点の提案を行い了承された。  
規約改正委員会メンバー:(委員長)和田守義(委員)渡辺 忍、藤木 昇、関根紀光、水島三千夫  
任期:平成26年6月から平成27年5月  
平成28年度総会に改正案を提案できるよう推進する。
- ①総会における代表委員数と理事数とのアンバランス(議決権の見直し)
- ②総会構成員の役員の中に監事が含まれており議決権を有している。(役員の定義見直し)
10. 書記解任
11. 議長解任
12. 閉会の辞 吉田勇夫理事のことばを以て理事会を15時に閉会した。 以上

以上の議事録を証するため下記に署名する。

平成26年6月20日

議長 坂本祐之輔 印  
議事録署名人 吉田 勇夫 印  
議事録署名人 石塚 光男 印

## (公財)全日本スキー連盟日本スキー指導者協会

## 平成27年度 総会 議事録

日時 平成26年6月28日(土) 11:30～12:45

場所 スクワール麹町

〒102-0083 東京都千代田区麹町 6-6 電話 03-3234-8739

出席者 (名簿順敬称略)

名誉役員 菅 秀文 福岡孝純 長澤光雄 浦辻 直

会長 坂本祐之輔

副会長 藤島勝雄 渡辺 忍 山崎一正 榎本勝雄

特別理事 増田千春

理事 吉田勇夫 鈴木勘重 阿部隆郎 新井臣一

奥住公夫 和田守義 水島秀夫 藤木昇(事務局長)

委任 半沢 進 古賀澄夫 石塚光男 福田真人

佐藤昭藏

代表委員 三浦光男 庄司高士 芳賀 寛 西塚 彰

大山重彦

委任 金井 久 小林 賢 宮津久男

監事 委任 榎本建司 巻坂伸治

顧問弁護士 菅原哲朗

事務局 高橋イキエ 関根紀光 滝沢 誠 井駒利一

## ○事務連絡（理事長）

- ・平成27年度第1回理事会議事録につき、頁2議事録署名人の上の行、日付が空白になっていたため、平成26年6月20日との記入を依頼した。

## 1. 開会の辞 藤島副会長

忙しい中ご出席有難うございます。平成27年度日本スキー指導者協会総会を開会します。

## 2. 会長挨拶（坂本会長）

大変ご多様な中にも名誉会長の菅先生、福岡先生、菅原顧問弁護士、全日本スキー連盟から増田特別理事をはじめとして皆様のご出席を戴き、会議が開催できることに厚く御礼を申し上げます。皆様方には日頃からそれぞれの地域においてスキースポーツの普及振興、日指の活動推進にあたたかいご理解とご支援を戴いていることに厚く御礼を申し上げます。

おかげ様をもちまして、本年の諸事業も無事終了させて戴きました。先ほど菅先生からも、今年は白馬八方尾根においてスキーフェスティバルを開催したが、競技を中心とするやり方も一つあるのではないかとご指摘を戴きました。この大会においても大勢の皆様方にご出席を戴き、配送させて戴いた資料の最終ページにはその写真も掲載されています。これらを中心に今後も更に発展していくように皆様方のご支援をお願いするとともに、ご指摘いただいた皆様方に、ゴルフ大会、スキー大学も同じですが、重ねて御礼申し上げます。

特に今年は、ソチオリンピックが開催され、メダル8個のうちの7個が我が全日本スキー連盟がとってきました。私も先般、首相官邸においてスケート、スキー関係の皆様方と総理を交えた懇談の席に出席してきました。この後は、天皇皇后両陛下がご臨席を戴けるのではないかと考えていますが、お茶会等も予定されているところであり、まさに本年はスキーの活躍のシーンが報道でたくさん流れたわけであり、応援を戴いた皆様方に厚く御礼を申し上げます。

また、本年は11月9日に30周年の記念祝賀会を予定しており理事長を中心とする実行委員会を着々と準備を進めています。大きな30年という節目を迎えた本年、今年を契機として更に日本スキー指導者協会が発展していけるように変わらぬご指導、ご鞭撻を戴きますよう、お願い申し上げます。

## 3. 議長指名：坂本会長

## 4. 書記指名：関根局員、滝沢局員

## 5. 議事録署名人選出：三浦代表委員、庄司代表委員

## 6. 議事運営の確認（事務局長）

出席者：理事14名、代表委員5名、委任10名、合計29名（委任者を開会時点後追加）

以上、定足数を満たしており本日の総会は無効に成立している事を報告した。

## 7. 議事（報告順に記載）

## 7-2.SAJ報告（増田特別理事）

冒頭の会長挨拶のとおり、ソチオリンピックではスキー連盟として好成績だった。協会の皆様にも厚く御礼申し上げます。執行された事業は滞りなく終了した。そのご協力に対しても御礼申し上げます。本年はスキー大学を3会場に増やし、福島で3回目を行った。少し集まりが悪かったが要望を受けての開催でもあり、しばらく福島で続けていきたい。

検定会はここ数年参加者が60人～100人のペースで減少が続いてきたが、下げ止まりの傾向が出ている。単位制廃止の影響とみており、既得権のある単位取得者の特別措置があったために維持できた。もう60人ほど既得権者が残っており、来年度もほぼ横ばいを想定する。その先は単位制がなくなるため、また減少を推測している。

会員登録状況では、有料会員数は前年度約86,000人、今年3月末で約79,000人であるが、締めめの7月末には約83,000人（約5%減）を予測している。

10万人を割ってから2年ほどたつが、減少に歯止めがかからない状況という残念な報告である。

本年度の教育部のカレンダー案は、理事会未開催のため、取扱いに注意してほしい。理事会の開催数が減っており、ご案内も遅くなってきてしまう。

また来シーズンに向けてぜひともご協力をお願いしたい。

## 7-1.平成26年度概況報告（藤木事務局長）

資料に沿って報告。

第13回みんなで行こうスキー大学は、宿の都合でお断りした状況で、8名で催行した。

## 7-3.平成26年度本部会計及び事業決算報告

（藤木事務局長）

資料に沿って報告。慶弔費が出せなかった。

## 7-4.平成26年度監査報告（議長代読）

監事2名が欠席のため、監事からの依頼により、議長より資料に沿って報告。

## ○質疑応答

（菅名誉会長より）収入の協賛金は、個人（氏名）からか団体（団体名）からかを明記すべき。

## ○審議

議事7-1、7-3、7-4につき、原案通り承認。

## 7-5.平成27年度事業計画(案)（藤木事務局長）

## 7-6.平成27年度本部会計予算(案)（藤木事務局長）

7-5、7-6につき、資料に沿って報告。

ゴルフ：10月の連休を外して開催する。増税分を見込んだ予算。

会報：30周年記念を盛り込んだ内容にするためページも増やし、1ヶ月遅らせて発行予定。

## ○質疑応答

（菅名誉会長より）白馬八方のスキーフェスティバルは、内容が変わったからといって改めて第1回とするのではなく継続した回数を入れるべき。

（藤島副会長より）中止になった回もあるため、回数を入れない方がよいのではないかと。

（結論）回数を明記しないこととする。

（渡辺副会長より）祝賀会経費とは何か？感謝状とか、会場使用料などか？

（事務局長より）その通りである。

（三浦代表委員より）30周年記念号は祝賀会の記事を入れるのか？

（事務局長より）先に記念誌を作り、祝賀会の内容は次号で掲載する。

（三浦代表委員より）事前に発行するのであればもっと早い時期にできないか。北海道の場合は10月の総会時に配布したい。祝賀会の内容も掲載するならあきらめるのだが。

（事務局長より）北海道の要望は承知しているが、30周年ということで原稿量も多く作業が間に合わないため、11月発行で了承願いたい。ページも増えるため、広告も多く集めたい。

（会長より）用紙もあまりお金をかけずに、従来のインストラクターの表紙をカラーにする程度の予定だった。

（議長より）本件については、次の議題で改めて審議する。

## ○審議

議事7-5、7-6につき、原案通り承認。

## 7-7.30周年記念祝賀会について（水島理事長）

実行委員長水島秀夫、主たる業務を水島三千夫が担当し、原案は先ほど報告の通り（資料参照）。表彰は精査に労力がかかるが頑張りたい。

## ○質疑応答

（藤島副会長より）会報はこれまでも北海道からの要望により発行を早めてきた。どうせ遅れるなら、祝賀会の内容も載せてはどうか。11月は中途半端である。

（事務局長より）記念品を兼ねる位置づけで、祝賀会で配ることを考えた。

前回の理事会では了承を得ている。早めるならいつまでに必要か？

（三浦代表委員より）早めるなら従来通り10/1である。

遅くとも10/10。

（渡辺副会長より）記念式典の内容も載せるかどうかの議論ではないのか？

(藤島副会長より) なぜ遅くなるのかわからないが、遅くなるなら載せたほうが良い。

(事務局より) そうなると記念式典の時に資料が何もなくなる。

(渡辺副会長より) その時参加した方に渡すための記念誌ではなく祝賀会の記録を載せたほうが良いのではないかな。単なるお土産ではさびしい。

(会長より) 各県連でも各記念行事の時に議論になる内容である。理事会では何の記念品も出せないため、そのように決定した経緯がある。バッヂなどの作製も検討したが、予算的に厳しかった。

従来のインストラクターと別に出すのであれば、更に予算的措置が大変

(福岡顧問より) 時間も大事だが、30年の節目だから内容が大切。内容に関することが何も提示されていない。栗林さん、柴田先生がどうしてこの指導者協会を作ったのか。スキー連盟がもっと身軽になって、指導者協会が主体的になっていくというのが世界の傾向である。そういう議論なくして、ただお土産にすればよいとか、そういうのは一寸と引かかる。

本来の議論をするにはあまりに時間が無い。普通はこのようにするには1年ぐらいかけて問題点を挙げ、なぜこの指導者協会が全日本スキー連盟の下部であって、世界で日本だけが、指導者協会が競技と教育両方やっているところに隷属とは言わないが、予算でも全て従っているのは世界でも異常な状態。FISとインタースキーは別である。日本だけが特別である。私は副会長で毎年謝っている。日本だけが特別なんだと。日本はもっとグローバル化しなければいけない。その中で指導者のモラルも問われている。そういうことも考えると、この30周年の節目では、物故されている方も含め、その遺志を継いで、どうするか考える時期である。少し口が増えますが、菅先生が教育本部の頃は競技本部に対抗しても十分な力量をもって、堂々と日本を発展させることができた。最近は競技本部の言いなりだ。どんどん減っている。そのことを誰も言わず、目をつぶっているのは良くない。私も70を超えたので言わせてもらおう。世界中の人が心配している。今ヨーロッパはリゾート全盛。日本だけが指導者の数がじりじり減って高齢化が進んでいる。後継者、子供に対する施策も、総理が色々言っても具体的にやるのは全日本スキー連盟、そして我々だ。それに対して30周年というなら、そういうことも含めて時間は少ないけれども、もしそういうことがきちんとできるなら、少し時間がかかっても良いのではないかな。

私は今までやっていった栗林さん、松浦さんとかはすぐ期待していたが、他界してしまった。菅先生が唯一残っているが、教育本部の真骨頂となって、意地があると思う。増田先生も立派な方で人格者だが、南関東がしっかりしなければ日本のスキー指導者は消滅する。その辺のことで、とても大事なので、あえて申し上げた。

(菅名誉会長より) 理事会の決定もあろうが、最高議決機関は総会だ。確認と同時に訂正してほしい。例えばフェスティバルは親睦という規約に基いている。その趣旨を作ったのは第1回の柴田先生だ。第1回から続いているのだから昨年が第1回、来々が第2回ではない。訂正を求める。

一般の指導員に一番弱点とされているのがボール、アルペンだ。柴田先生はその意味で親睦会もアルペンのミニGSLをやったらどうかという提案をされている。それを守ったらどうか。北海道がブロックごとに毎年やっている。立派なものだ。著名な講師も招いている。そういう親睦会を開くべきだ。アルペンやっても参加者が少ないが、それを心配して、前副会長の阿部さんは自分のクラブから10名ぐらい集め、現会長の坂本さんは自分のクラブから何名か集め、そのように理事会が責任をもって自分のところから人を集める。北海道が一番良い。ブロックごとに開催するという手もある。今回講師の伊藤妙子さん(旧姓大谷妙子さん)は、国体でも優勝している。単に一緒に滑るだけでなく、ボールを滑らせるのも良い。

(議長より) 回数は明記しない方向で考えている。活動の内容は指摘内容を考慮する。

(事務局より) 20周年記念誌は、過去からの歴史を52ページにわたり記載、インストラクターとして11ページこれと同じようにしたい。起源等はすこし書くが、20年～30年を主体に記載し、作る予定である。

(福岡顧問より) 歴史は面倒くさいからあまり書かない傾向にある。中止も含めて回数を記載したらどうか。

全部をトレースすることも大事だと思う。

(議長より) 記念誌の発行は20周年をモデルとして事務局で作成する。発行時期は後日というだけでなく、できるだけ早める。今年は2回理事会を開かせていただいてその方向で決めた。別の意見があればここでお願いしたい。

(藤島副会長より) 北海道指導者協会では昨年60周年記念をやった。その際60年の歴史は苦労して作った。やはり歴史は30年史に綴っておいた方がよい。

(事務局より) 基本的には20周年の記念誌を踏まえ、初期の歴史も含めて作成する。

(福岡顧問より) 決定的に大事なことは、社会体育指導者認定ということで、文部大臣認定があったじゃないですか。

SAJの堤会長が文部省のことを聞こうじゃないかといった時に、SIJの田会長がそれじゃだめだと、全日本は民主主義で下から積み上げた指導者なんだということで頑張ったので今の指導者協会がある。そういうことは忘れないでほしい。これは世界の流れに沿って正しかった。今大臣認定の指導者は、増えているでしょうか。増えていない。やはり国家統制でやるとだめだ。民主主義で積み上げるのがスポーツだということを指導者協会は敢然とやってきた。その辺は事務局の方も是非よろしくお願いします。

(議長より) それでは30周年祝賀会はただ今説明してきた方向で進めたいが意義ありますか？

→異議なし。

#### 7-8.規約改定についての途中報告(和田理事)

6月1日の理事会において委員会が設立された。メンバーは渡辺副会長、藤木事務局長、水島事務局次長、関根事務局員、和田理事の5名である。規約改定のポイントは2つ。1つは代表委員と理事の数のアンバランス、もう1つは総会の構成員を明確にする。期限は今年開かれる理事会に提案し、来年度総会に諮る。

#### ○その他意見

(渡辺副会長より) スキー界低迷の中、根本的な対策がなされていない。オリンピックで感動が与えられたとしても再度スキーブームが来ることはないだろう。今指導員合格しても教える生徒がいない。毎年合格者は出るが、それ以上に指導者資格を放棄している者もいる。

かつて日本スキー研究会があったが、それと同じような性格で、スキーの活性化についてアカデミックな、お互いに探求していく会でなければいけないと思う。親睦も悪くないが、OBの拠り所ではなく、将来全日本スキー連盟に物申すスキー活性化の探求や情報交換の場としたい。

#### 8. 提案事項

##### 1) 各県提出書類による案件について

特になし。

##### 2) その他連絡とお願い(インストラクター30号原稿依頼など)

資料の通り、依頼した。祝辞は別途依頼する。

#### ○菅原顧問弁護士より挨拶

今、スポーツ界は2020年のオリンピック、パラリンピックに向けた議論に終始している。スポーツ庁という国の機関について協議され、政治主導で進んでいる。既存の組織をどう変えるか、というのは非常に難しい。最終的には政治的判断になる。私はやはり世界のグローバルスタンダードの中から、日本のスポーツは興っていったら良いと思う。スポーツ指導者は世界との流通が良いので、自分たちの意見を出していく、そうすれば30周年の流れの中でまた新しい流れを作れるのではないかな。

#### 9. 書記解任

##### 10. 議長解任

##### 11. 閉会の辞(榎本副会長)

いい提案とご挨拶があった。これからはスキー界を大いに盛り上げていきたい。本日は本当にお忙しいところ有難うございました。

以上の議事録を証するため下記に署名する。

平成26年7月8日

議長 坂本祐之輔 印

議事録署名人 三浦 光男 印

議事録署名人 庄司 高士 印

## 平成 26 年度 事業別概況報告

	開催年月日	事業内容	会場
1	H 25年6月3日 総参加数16名	H 26年度第1回理事会	衆議院第2議員会館 第4会議室
2	H 25年6月29日 総参加数33名	H 26年度第2回理事事務会、総会、懇親会 役員事務局 28名 他5 名	スクワール麹町
3	H 25年10月13日 ～14日 参加総数64名	第20回SIJ親睦J°ル大会 岩手県 4、宮城県 5、福島県17、埼玉県11 千葉県8、東京都 6 神奈川県 13	那須カントリークラブ
4	H 25年10月1日	会報第29号 発行	14,500部発行
5	H 26年1月9日 ～13日 参加総数8名	第13回みんなで行こうSAJスキー大学 東京都 2、神奈川県 6	朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル
6	H26年1月27日	第1回(拡大)事務局会議 役員事務局員6名	衆議院第2議員会館 1124号
7	H26年3月24日	第2回(拡大)事務局会議 役員事務局員10名	衆議院第2議員会館 1124号
8	H 26年4月12日 ～13日 参加総数25名	第1回S I J 懇親スキーフェスティバル(白馬) 埼玉県6、千葉県 2、東京都8、神奈川県 9	白馬八方尾根スキー場 本部宿舎：刈岳館
9	H 26年5月7日 参加総数18名	第3回(拡大)事務局会議 役員事務局員11名 役員、事務局18名	衆議院第2議員会館 1124号

## 平成 26 年度 決算報告書

## 1. 収入の部

(▲ 予算比減) 単位：円

科目	予算額	決算額	予算比増減	項目
前期繰越金	266,223	266,223	0	前年度より
年会費	723,000	723,000	0	
会議費	300,000	198,000	▲102,000	
事業費	541,300	499,400	▲41,900	
用品販売費	0	0	0	ワッパソ、シール
雑収入	40	30,052	30,012	銀行利息 協賛金
合計	1,830,563	1,716,675	▲113,888	

## 2. 支出の部

科目	予算額	決算内訳	予算比増減	項目
会議費	430,000	231,871	▲198,129	
事業費	1,011,300	897,737	▲113,563	
用品加工費	0	0	0	ワッパソ、シール
通信費	50,000	39,976	▲10,124	切手、葉書、印紙購入、電報料、振込料
事務費	50,000	34,428	▲15,572	資料、議事録、封筒作製
事務所借用料	20,000	20,000	0	事務所借用料
渉外費	50,000	0	▲50,000	慶弔費(弔電、生花)
ホーム・ページ費	60,000	60,210	210	ホーム・ページ維持費
雑支出	10,000	0	▲10,000	会旗の年号修正
支出合計	1,681,300	1,284,122	▲397,178	
次期繰越金	149,263	432,553	283,290	
合計	1,830,563	1,716,675	▲113,888	

## 平成 27 年度 事業計画

	開催年月日	事業内容	備考
1	H 26 年 6 月 1 日 (月)	H27年度第 1 回理事会	衆議院第2議員会館
2	H 26 年 6 月 28 日 (土)	H27年度総会、懇親会	スクワール麹町
3	随時開催	平成27年度(拡大)事務局会議	
4	H 26 年 10 月 18 日 (土)～19(日)	第21回SIJ親睦ゴルフ大会(秋季) 募集 60名	那須CC 18日前夜祭 19日大会
5	H 26 年 11 月上旬	会報30号発行/30周年記念号の発行	15,000部
6	H 26 年 11 月 9 日 (日) 参加総数70名	SIJ30周年記念祝賀会	スクワール麹町
7	H 27 年 1 月 8 日 (木)～12日(月)	第14回みんなで行こうSAJスキー大学 募集 20名	朝里川温泉スキー場 朝里クラッセホテル
8	H 27 年 4 月 11 日 (土)～12日(日)	第2回SIJ懇親スキーフェスティバル in 白馬 募集 40名	白馬八方尾根 本部宿舎:刈岳館

## 平成 27 年度 本会計予算

## 1. 収入の部

科目	予算額	前年予算額	増減	摘要
前期繰越金	432,553	266,233	166,320	
会議費	723,000	723,000	0	27年度分(実会費収入予測)
会議費	240,000	300,000	▲60,000	H27総会・懇親会
事業費	1,247,480 487,480 700,000 20,000 40,000	541,300	706,180	親睦ゴルフ大会第21回 30周年記念祝賀会 SAJスキー大学企画料 SIJ懇親スキーフェスティバル
雑収入	40	40	0	銀行利息他
合計	2,643,073	1,830,563	812,510	

## 2. 支出の部

科目	予算額	前年予算額	増減	摘要
会議費	320,000	430,000	▲110,000	H27総会 事務局会議費
事業費	1,967,480 327,480 900,000 700,000 40,000	1,011,300 321,300 650,000 0 40,000	956,180	親睦ゴルフ大会 会報30号 30周年記念祝賀会 SIJ懇親スキーフェスティバル
通信費	50,000	50,000	0	切手、葉書
事務費	50,000	50,000	0	印刷、コピー
事務所借用料	20,000	20,000	0	
渉外費	50,000	50,000	0	渉外、慶弔
ホームウェア費	60,000	60,000	0	
雑支出	10,000	10,000	0	雑費
支出合計	2,527,480	1,681,300	846,180	
次期繰越金	115,593	149,263	▲33,670	
合計	2,643,073	1,830,563	812,510	
収支差額	0	0	0	

## 第20回S. I. J. 親睦ゴルフ大会実施報告書

## 1. 前夜祭(懇親会) 那須カントリークラブ 栃木県那須郡那須町寺子乙677-28 0287-62-0840

平成25年10月13日(日) 18時より夕食兼懇親会 レストラン 司会 神奈川 阿久津光代

1. 開会のことば 司会 開始18時20分

2. 会長挨拶 副会長 半沢 進

3. 挨拶 SAJ 理事 五十嵐憲雄

4. 競技説明 理事長 水島 秀夫

5. 協賛及び役員紹介 事務局長 藤木 昇

6. 乾杯

7. 懇親カラオケ

8. 中締め

8. 閉会のことば

理事

各テーブル、地方より喉自慢を披露

理事

事務局長

佐藤 昭蔵

阿部 隆郎

藤木 昇

修了20時15分

## 2. ゴルフ大会 那須カントリークラブ 栃木県那須郡那須町寺子乙677-28 0287-62-0840

平成25年10月14日(月・祝)

## ① 開会式 司会 理事長 水島 秀夫 開始7時45分

1. 会長挨拶 副会長 半沢 進

2. 競技説明 理事長 水島 秀夫

スタート

8時00分アウト8組/イン8組同時スタート コース内カート乗入れ可

## ② 表彰式並びにパーティー 司会 理事長 水島 秀夫 開始15時20分

1. 開会のことば 理事 吉田 勇夫

2. 会長挨拶 副会長 半沢 進

3. 地元挨拶 那須CC支配人 村田 悟

4. 成績発表 理事 新井 臣一

5. 表彰

6. 優勝者挨拶

7. 中締め

8. 閉会の辞

副会長

参与

理事長

半沢 進

児玉 兼信(東京都)

長澤 光雄

水島 秀夫

修了16時10分

前夜祭参加者 40名、コンペ参加者数 59名、新ペリア方式採用 パーティー等も含めた総参加者64名

参加県 岩手県4、宮城県5、福島県17、埼玉県11、千葉県8、東京都6、神奈川県13

## 成績

順位	個人戦 男子の部					個人戦 女子の部					団体戦上位8人	
	氏名	県名	グロス	ハンデ	ネット	氏名	県名	グロス	ハンデ	ネット	県名	ネット計
1位	児玉 兼信	東京都	102	30.0	72.0	田中 恵美	埼玉県	98	22.8	75.2	福島県	757.8
2位	高橋 哲男	埼玉県	81	8.4	72.6	武藤 節子	岩手県	107	30.0	77.0	埼玉県	771.4
3位	千野 有司	埼玉県	87	14.4	72.6	高橋 美和	福島県	96	18.0	78.0	宮城・東京	774.8
シニアの部												
1位	長澤 光雄	千葉県										
2位	黒崎 弘康	神奈川県										
3位	安部 英夫	福島県										

## 各賞

ベストグロス賞				アトラクション賞				
部	氏名	県名	グロス	ドラコン	アウト3	小高 芳彦	イン12	高橋 哲男
男子	高橋 哲男	埼玉県	81	ニアピン	アウト5	加藤 照光	イン11	長澤 光雄
女子	高橋 美和	福島県	96	ニアピン	アウト7	加藤 照光	イン15	大雁丸正人

協賛会社 那須カントリークラブ、ハンターマウンテン塩原、スキージャーナル

(敬称略) ブリジストンタイヤセールス関東、ボーヤ、日弘 黒崎 弘康

(順不同) 日本スキー指導者協会 会長 坂本祐之輔、日本スキー指導者協会 監事 榎本 建司

埼玉県スキー連盟 会長 坂本祐之輔、岩手県スキー指導員会 会長 吉田 勇夫

宮城県スキー指導員会 会長 半沢 進、千葉県スキー指導員会顧問 渡辺 忍

千葉県スキー指導員会 会長 佐藤 昭蔵、東京都スキー指導者協会 会長 山崎 一正

今年は去年より参加者が増え、夜の前夜祭も半数以上の参加がありました。

13日夕は前夜祭。夕食を兼ねた懇親会のテーブルは、違う県同士の組合せもあり、新しい出会いで和気あいあいの会話や、カラオケ大会等で、7都県会員の交流も深まり楽しいものとなりました。その後ロッジのロビーでは待っていましたとばかりの大2次会、お国自慢の酒やつまみを持ち寄り、各県の人達が大いに盛り上がりました。

翌14日は快晴無風、8時スタート。カートの乗入れの効果もあり順調に進み、全組が競技終了し表彰式は15時20分開始。表彰式並びにパーティーでは、上記各社の協賛支援を賜り全員に賞品を授与する事が出来ました。協賛各社にお礼を申し上げます。16時10分に表彰式も終わり、各地に向け帰路につきました。皆さんお疲れさまでした。3連休の最終日で道路が大渋滞の事もあり、JR普通列車のグリーン車で宴会を開きながら帰ったグループもありました。

参加の皆様からは、「懇親会、ロッジの2次会は最高に楽しかった」との声も頂きました。ゴルフの組分けも、他県の人と2人ずつの組も数組つくり、違った県の方との交流も深まったと思っています。





## 第13回みんなで行こうスキー大学実施報告書

日 程	A日程 平成26年1月9日(木)～13日(月) 5日間 B日程 平成26年1月9日(木)～12日(日) 4日間 旅行取扱 (株)シティフェイス
会 場	北海道 朝里川温泉スキー場 (〒047-0154北海道小樽市朝里川温泉1-394 TEL 0134-54-0101)
宿 舎	朝里クラッセホテル(小樽グランドパーク泊希望者無し) (〒047-0154北海道小樽市朝里川温泉2丁目676 TEL 0134-52-3800) 3名1室
費 用	羽田9日朝/夜発 5日間A朝59,800円A夕58,800円航空運賃、宿泊代(4泊4朝食) 羽田9日朝/夜発 4日間B朝44,800円B夕43,800円航空運賃、宿泊代(3泊3朝食)
参 加 者	8名 東京2、神奈川6(A日程7名、B日程1名)
日 程	
1/09(木)	朝羽田 8:00発→ANA53新千歳空港 マイクロバス迎車5名 朝里クラッセホテル11:30着
曇時々雪	夕羽田 18:30発→ANA76他新千歳空港 各自朝里クラッセホテル 3名19:50着
1/10(金)	8:00～ 9:00 スキー大学受付
晴後雪	9:00 開会式 9:30～10:00 講師によるデモ(研修テーマ:基礎パラレルへの展開「三本の矢」 (Aブルークスタンス Cシュテム B横滑りパラレルスタンス) 10:30～15:00 ナショナル/SAJデモによる班別実技講習 15:30～17:00 理論講習:班別に講師とのミーティング
1/11(土)	9:30～15:00 午前/午後ナショナル/SAJデモによる班別実技講習
雪	15:30～16:30 森信之主任講師による研修テーマ「基礎パラレルへの展開」理論 18:00～19:30 講師と受講生全員による交流会パーティー
1/12(日)	9:30～11:30 ナショナル/SAJデモによる班別実技講習
雪	11:30～12:00 講師によるデモ兼クリニック(検定種目別演技) 12:00～12:30 B日程(3日コース) 全員151人で閉会式 15:00～ B日程朝里クラッセホテル発各自、ANA78 21:10 羽田空港着 以後はA日程(4日コース) 14:00～16:30 ナショナル/SAJデモによる班別実技講習/理論講習
1/13(月)	9:30～11:30 ナショナル/SAJデモによる班別実技講習
雪	11:50～12:00 A日程の講師デモを3チームに別けレッドコースをフォーメーションによる デモンストレーション滑降 12:00～12:20 A日程(4日コース) 全員179人で閉会式 14:40～17:20 A日程朝里クラッセホテル発マイクロバス、大雪で小樽-南札幌が通行 止めの為、一般道も経由し時間が掛かった。 19:30～ ANA78 21:10 羽田空港着

## 概 況

1. 今回のツアー参加は昨年より10名少ない8名。クラッセホテルに別団体が入り手配が遅れて3室しか取れず先着順に朝里泊としたが、小樽グランドパーク泊で企画した小樽泊は希望無く8名で終わった。
2. 今年は1月成人の日の開催で、スキー場はすいていたが、帰りの飛行機は満席だった。
3. 今年のスキー大学第一会場全参加者は去年より9名多い330名であった。
4. 第一会場のスキー大学は和気あいあいとした雰囲気でも半分以上リピーターの参加者である。
5. 今年の研修テーマは大きく変わり、外足荷重、外向傾の重視に戻った。去年までの技術論から現場の指導論重視への転換である。
6. 今年も毎日講師が変わり、異なった教え方に接して新鮮な気持ちで講習に望め、人気のあるデモに教えてもらえる確率が高くなると好評だった。
7. 今年も相部屋で1人での参加者を安くする募集形態で、一番確実に参加できるツアー企画として良いものと思われるが宿の早い手配が重要である。マイクロバスの送迎サービスもありがたい。

## S. I. J. 懇親スキーフェスティバル(白馬)実施報告書

日 程 平成26年4月12(土)～13日(日)

日 程	内 容
4/12(土)	13:00 開会式 八方尾根うさぎ平 ゴンドラ駅前 坂本会長以下24名 ～15:00 「伊藤妙子講師とともに滑ろう」白馬八方案内ツアー 受講22名 20:00～ ホテルにて懇親会 23名
4/13(日)	自由行動 各自解散

本部宿舎 ホテル対岳館 〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村八方 TEL 0261-72-2075

スキー場 白馬八方尾根スキー場 〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村八方

全参加者 埼玉県 6名、千葉県 2名、東京都 8名、神奈川県 9名 総計25名

協 賛 坂本会長、東京シスター、榎本副会長

概 要 各県指導員会の交流の集いとしてSIJ 懇親スキーフェスティバル(白馬)を開催し関東4県より25名が参加した。

12日：13時に八方尾根ゴンドラ上、うさぎ平にて開講式を行った。

天候は快晴。坂本会長の挨拶のあと白馬八方スキースクールの伊藤妙子講師の案内で後立山連邦や飯綱、戸隠、志賀高原の山々の案内、コースの案内をうけリーゼングラート、黒菱、スカイライン、兎平の各コースを滑り155時に集合場所で解散した。坂本会長など数名の方は16時のリフト終了まで滑っておられた。

午後の雪は、ザラメでコブやウネリが多く体力のいるバーンだった。

20時より対岳館の2階で懇親会を開き坂本会長挨拶、丸山特別顧問挨拶の後、各人の自己紹介を行いそれぞれの近況を披露した。

その後ご協賛頂いた賞品の抽選会を行い全員が頂いた。会長は所用のため皆でお見送りをした後も懇親で夜もふけた。

13日：フリースキー 朝の締まった雪のうちに11時頃まで滑り各々帰途についた。

尚、午前9時半より第19回八方スーパーモーグル&amp;スプリングフェスタが兎平で開催された。

上村愛子さんのゲストランがあった。20年の選手生活お疲れ様でした。(写真参照)

全体として関東4県ではあったが情報交流出来て有意義だった。 以上



12日 開会式



12日 開会式 右伊藤講師



12日 会長滑走中 中央



12日 夕食時会長挨拶



12日 夕食時東京都参加者と



12日 夕食時埼玉県参加者と



12日 夕食時神奈川県参加者と



12日 懇親会会長挨拶



13日 上村愛子ゲストラン

(公財)全日本スキー連盟 日本スキー指導者協会規約

第1章 総 則

- (名 称)
- 第 1 条 この会は、(公財)全日本スキー連盟 日本スキー指導者協会  
(英文名 SKI INSTRUCTOR OF JAPAN、略称S. I. J. ) という。
- (事 務 所)
- 第 2 条 この会の事務所は東京都に置く。

第2章 目的および事業

- (目 的)
- 第 3 条 この会は、スキー指導者相互の情報交換をはかることにより、スキー界の活性化に寄与し、あわせてスキー指導者の資質の向上と社会的貢献をはかることを目的とする。
- (事 業)
- 第 4 条 この会は、前条の目的を達成するため次の事業を行う。
- (1) スキー指導者相互の情報交換と連携。
  - (2) (財)全日本スキー連盟への協力。
  - (3) 機関紙の発刊。
  - (4) その他この会の目的達成に必要な事業。

第3章 会 員

- (会 員)
- 第 5 条 この会の会員は、S. A. J.加盟団体及びスキー指導者により構成する各都道府県の団体を会員とする。  
ただし、団体が会員でない場合は個人を会員とすることができる。
- (賛 助 会 員)
- 第 6 条 この会の目的に賛同しその事業に協力する個人または団体を賛助会員とすることができる。
- (会員の義務)
- 第 7 条 会員は、この会の行う事業に積極的に協力し、または行事に参加するものとする。  
2. 会員は別に定められた会費を納入しなければならない。
- (退 会)
- 第 8 条 会員が退会するときは、その理由を付し退会届を会長に提出しなければならない。

第4章 役 員

- (役 員)
- 第 9 条 この会に次ぎの役員をおく。  
会長 1名、副会長 若干名、理事 10名以上15名以内、特別理事 若干名  
監事 2名
- (役員を選任)
- 第 10 条 前条の役員は、総会で選任する。  
2. 会長、副会長及び監事の選出は別に定める。  
3. 特別理事は理事会で推挙する。  
4. 理事長及び副理事長は理事の中から理事会の互選により選出する。
- (役員の職務)
- 第 11 条 会長はこの会を代表し、この会の業務を総理する。  
2. 副会長は会長を補佐し、会長が事故ある場合及び必要に応じ職務を代行する。  
3. 理事長は、会長および副会長を補佐し、この会の業務を掌理する。  
4. 理事は、日常の業務を執行する。
- (監事の職務)
- 第 12 条 監事は会議に出席し意見をのべることができる。ただし議決に加わる事はできない。  
2. 監事は、次の各号に定める業務をおこなう。  
(1) 財産の状況および整理の監査。  
(2) 業務執行状況の監査。  
3. 監査の結果、必要があると認めたときは会長に対し総会の招集を要請することができる。
- (役員任期)
- 第 13 条 役員任期は2年とし、再任を妨げない。  
2. 役員はその任期満了後でも、後任者が選任されるまでは、その職務を遂行する。  
3. 補充または増員により選出された役員任期は、現任者の残存期間とする。
- (役員解任)
- 第 14 条 役員が次ぎの各号に該当したときは総会の議決を経て解任することができる。  
(1) 心身の故障のため職務執行にたえられないと認められたとき。  
(2) 職務上の義務違反、および役員にふさわしくない行為があったと認められたとき。

(役員の報酬)

- 第15条 役員は、原則として無報酬とする。  
ただし、その職務のため必要な費用について支給することができる。

(名誉役員)

- 第16条 この会に、名誉会長 名誉顧問、特別顧問、顧問、参与、会友をおくことができる。
2. 名誉会長はこの会の会長であった者を総会にはかり会長が委嘱する。
  3. 名誉顧問はこの会の名誉会長であった者、および同等の功労のあった者を総会にはかり会長が委嘱する。
  4. 特別顧問は、必要に応じ総会にはかり会長が委嘱する。
  5. 顧問及び参与は、この会の発展に特に功労のあった者を総会にはかり会長が委嘱する。
  6. 特別顧問及び顧問は、特定事項について会長の諮問に応ずる。
  7. 参与は、特定事項について理事会の諮問に応ずる。

(事務局)

- 第17条 この会の事務処理を行うために事務局を置く。
2. 事務局の構成は次ぎのとおりとする。  
局長 1名、次長 2名以内、局員 若干名。
  3. 局長は会長が任命し、理事とする。
  4. 次長及び局員は会長が任命する。
  5. 局員は有給とすることができる。ただし、その報酬は理事会の議決を得て会長が定める。

## 第5章 会 計

(会計年度)

- 第18条 この会の会計年度は毎年6月1日より5月31日までとする。

(経 費)

- 第19条 この会の運営に要する費用は次の各号を以ってあてる。

- (1) 年会費
- (2) 事業収入
- (3) 協賛金
- (4) 補助金
- (5) その他の収入

(年会費)

- 第20条 年会費は原則として都道府県会員の規模割りによるが、実情によりブロック単位に算定し納入することができる。  
なお、その算定方法は、個人会員とあわせ別に定める。

## 第6章 会 議

(会議の種類)

- 第21条 この会の会議は、総会、理事会、その他各種委員会とする。

(総 会)

- 第22条 総会はこの会の最高の議決機関とする。

( 総会の構成 )

- 第23条 総会は、各都道府県から選出された代表委員及び役員で構成する。
2. 名誉役員に出席を要請し、意見を求めることができる。

( 総会の招集 )

- 第24条 総会は毎年1回以上、会長が招集する。  
ただし、代表委員の2分の1以上から会議の目的事項を示し、総会開催の請求があったときは60日以内に総会を招集しなければならない。

( 総会の議決 )

- 第25条 総会の議決は、特別に定めた事項を除き出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は議長が決するところによる。

( 総会の議長 )

- 第26条 総会の議長は会長もしくは会長の指名する者とする。

( 総会の審議事項 )

- 第27条 総会は次の事項を審議、決議する。
- (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
  - (2) 事業報告及び収支決算報告に関する事項
  - (3) 役員の選出、承認及び解任
  - (4) 規約、規程の改廃
  - (5) 会員の加盟の承認及び除名
  - (6) 会員からの提出議案
  - (7) 役員及び会員の表彰
  - (8) その他、必要と認める事項

## ( 理事会 )

- 第 28 条 理事会は会長、副会長、理事、特別理事、監事をもって構成し、会長が必要に応じ招集する。
2. 理事会の議長は会長もしくは会長の指名する者とする。
  3. 会長は必要に応じ、名誉役員に出席を要請し意見を求めることができる。

## ( 理事会の業務 )

- 第 29 条 理事会は次の業務を処理する。
- ( 1 ) 事業計画及び予算の立案ならびに執行
  - ( 2 ) 事業報告及び決算の処理
  - ( 3 ) 役員等の選考に関する事項
  - ( 4 ) 規約、規程の立案
  - ( 5 ) 会員拡大に関する事項
  - ( 6 ) 会員からの提出議案の処理
  - ( 7 ) 役員及び会員の表彰者の推薦
  - ( 8 ) その他、必要事項

## ( 各種委員会 )

- 第 30 条 この会に事業遂行上必要と認める場合、各種委員会をおくことができる。
2. 各種委員会の設置及び構成する委員の選出は理事会の議決による。
  3. 委員は会長が委嘱する。

## ( 議事録 )

- 第 31 条 総会及び理事会の議事については次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。
- ( 1 ) 開会の日時及び場所
  - ( 2 ) 会議に出席した構成員の氏名
  - ( 3 ) 議決事項
  - ( 4 ) 議事の経過の要旨及び発言者の発言要旨
2. 議事録には、議長及びあらかじめ選出された議事録署名人が署名しなければならない。
  3. 議事録は作成後すみやかに会議構成員に開示することとする。

## 第 7 章 付 則

## ( 細 則 )

- 第 32 条 この規約の施行上必要な事項は、別に細則に定めることができる。

## ( 規約の改廃 )

- 第 33 条 この規約の改廃は、総会において出席者の過半数の同意によらなければならない。

## ( 規約の施行と改正 )

- 第 34 条 この規約は昭和 58 年 10 月 30 日より施行する。
- |                    |                           |
|--------------------|---------------------------|
| 昭和 61 年 12 月 3 日改正 | 平成 11 年 7 月 18 日改正        |
| 昭和 62 年 8 月 23 日改正 | 平成 13 年 8 月 5 日改正         |
| 昭和 63 年 8 月 27 日改正 | 平成 15 年 8 月 2 日改正         |
| 平成 6 年 7 月 17 日改正  | 平成 16 年 7 月 31 日改正        |
| 平成 7 年 7 月 12 日改正  | 平成 21 年 7 月 26 日改正        |
| 平成 9 年 7 月 12 日改正  | 平成 22 年 8 月 8 日改正 ( 全面 )  |
| 平成 10 年 7 月 19 日改正 | 平成 25 年 6 月 29 日改正 ( 全面 ) |

\*\*\*\*\*

( 公財 ) 全日本スキー連盟日本スキー指導者協会 運営細則

\*\*\*\*\*

## ( 会長、副会長及び監事の選出 )

- 第 1 条 会長、副会長及び監事は理事会の推挙にもとづき、総会において選出する。

## ( 総会への出席 )

- 第 2 条 賛助会員、名誉会員、個人会員及び都道府県会員に属する個人は総会に出席することができる。ただし、議決には加わらない。

## ( 年会費 )

- 第 3 条 会員の年会費は原則として別表に定めた金額とする。

## ( 慶 弔 )

- 第 4 条 役員等の慶弔については、必要に応じその都度会長が決め執行する。

## 付 則

- 第 1 条 この運営細則の改廃は、理事会において議決し、総会の承認を得なければならない。

- 第 2 条 この運営細則は、平成 22 年 8 月 8 日より施行する。

平成 25 年 6 月 29 日改正

(公財)全日本スキー連盟

日本スキー指導者協会

## 役員名簿

2013. 6～2015. 5

名誉会長	菅 秀文	東京都	会長	坂本祐之輔	
特別顧問	丸山 庄司	長野県	副会長	藤島 勝雄	北海道
顧問	毛利 修三	北海道	〃	半沢 進	宮城県
〃	坂井 和夫	北海道	〃	渡辺 忍	千葉県
〃	岸 英三	山形県	〃	山崎 一正	東京都
〃	福岡 孝純	東京都	〃	榎本 勝雄	神奈川県
〃	杉崎壽三男	東京都	特別理事	増田 千春	S. A. J. 理事
〃	林 権一	東京都	理事	水島 秀夫	神奈川県 理事長
〃	大澤 佑吉	神奈川県	〃	新井 臣一	埼玉県 副理事長
参 与	宮本忠五郎	宮城県	〃	吉田 勇夫	岩手県
〃	長澤 光雄	千葉県	〃	鈴木 勘重	山形県
〃	浦辻 直	東京都	〃	阿部 隆郎	福島県
			〃	古賀 澄夫	茨城県
顧問弁護士	菅原 哲朗	キース法律事務所	〃	石塚 光男	栃木県
			〃	福田 真人	埼玉県
			〃	佐藤 昭藏	千葉県
			〃	奥住 公夫	千葉県
			〃	和田 守義	東京都
			監 事	榎本 建司	栃木県
				巻坂 伸治	千葉県
			代表委員	三浦 光男	北海道
			〃	金井 久	埼玉県
			〃	庄司 高士	千葉県
			〃	芳賀 寛	東京都
			〃	西塚 彰	東京都
			〃	大山 重彦	神奈川県
			〃	小林 賢	山梨県
			〃	宮津 久男	長野県

## 事務局

局 長	藤木 昇	神奈川県	規約17条3項による理事
次 長	高橋イキ工	東京都	
〃	水島三千夫	神奈川県	
局 員	関根 紀光	埼玉県	
	滝沢 誠	東京都	
	井駒 利一	神奈川県	



## 事務局だより

本年度は30周年記念誌との合併号を出すことになり、事務局としていつもより原稿依頼を多くお願いし、出筆者各位に無理をお願いすることが増えました。

現在まで、S.I.J.事務局は、会長の意向のもと、会の実態に合わせた規約の改正、各県の実情に合った行事企画と準備、実施に向かった現地との打ち合わせなど、総会で決定した内容の実行を行っております。この会報発行のあと30周年祝賀会に向け、実行委員長の下で準備を進めてまいります。

運営機能：事業企画立案等など理事会や総会までの各種準備、総会決議後の実行など、理事長の指示のもと、事務局と東京近県の副会長、理事、代表委員を交え事務局会議を適宜開催し、会全体の運営のお手伝いをしております。各県の親睦に寄与する事業の実行は日程と予算の調整、実施準備等、会費の中で効率的に実施するために奮闘しております。

総務機能：各県役員または指導員会宛の通知、会費納入のお願い、理事会と総会資料の作成と会議の手配、議事録の作成、スポンサー募集とお礼状の発送、慶弔に関する連絡と手配等を行っております。特に会費の納入状況が芳しくないため、経費的にも運営が苦しい状況です。

広報機能：会報の企画編集、寄稿依頼と手作り発行、執行内容のホームページへの掲載維持等です。ホームページは会報と共に全国のスキー指導者の連携と一体感をかもしだすために重要な要件と考えています。是非皆様の投稿やニュース寄稿、ご意見の提供をお願い致します。

会議資料や名簿、議事録、会報も経費節減のため手作りでミスのないよう事務局内でメールを使いチェックし合っておりますが、不備な点で皆様にご迷惑をかけており、また、事業参加者募集においても企画倒れのものも発生し皆様のご期待に添えない事も多々あり申し訳ありません。一層努力してまいります。

事務局員は皆様と出会い、行事や会報によって会員の方々との連携を実感しながら、また楽しみながら仕事を進めております。更に喜びの多いS.I.J.として行きたくよろしくお願い申し上げます。

現在の事務局員の担当は下記のようになっています。

事務局長（理事）総括・経理担当 藤木昇（神奈川県）、事務局次長 総務担当 高橋イキエ（東京）

事務局次長 広報担当 水島三千夫（神奈川）

事務局員 関根紀光（埼玉）滝沢誠（東京）、井駒利一（神奈川）

## 会費納入のお願い

日本スキー指導者協会の運営は、全国各県の指導員会組織(SAJの各県連組織を含む)からの会費が基本になっております。皆様から頂く約72万円の年会費は全国の指導員への情報提供とコミュニケーションの場であるこの会報の発行とホームページの維持に殆んどが費やされています。

また、滞納気味の県もあり当会の運営は財政的に非常に苦しい状況です。このような事情から誠に勝手ながら、本年度の会報発行に合わせ、会費未納の各県の指導員会事務所に請求書をお届けさせて頂きますので、何とぞ年内納入にご協力頂きたく節にお願い申し上げます。

事務局長 藤木昇

## 《編集後記》

日本スキー指導者協会が創立30周年を迎え、更なる発展にむけてスタートを切った。高齢化、少子化がすすみスポーツ人口の先行きも不透明な状況にあるが、手を拱いては何も始まらない。スノースポーツの先達として、指導者が取り組まなければならない課題は山積しているが、まずは、スノースポーツの楽しさや感動を理屈抜きで共感できる仲間づくりから取り組んでみたい。また、次世代にどの様に伝えていくか、単年度の事業の消化に追われるだけでなく、S I Jとしての立ち位置と明確なビジョンのもとに、10年後20年後を見据えた長期計画の策定が望まれる。編集を担当して諸先生方のご提言に応えるべく、出来るところから少しずつでも行動を、と強く感じた次第です。

記念誌+会報30号にご寄稿を賜った関係各位並びに編集にご協力いただいた委員の皆さまに心から感謝を申し上げます。 M

\*\* 編集委員 \*\* 水島 秀夫、藤木 昇、高橋イキエ、水島三千夫

## 2014年度 関係団体一覧

北海道	0144-72-4060	藤島勝雄様方
青森県	0172-48-3490	一般財団法人青森県スキー連盟内
岩手県	019-656-6655	一般財団法人岩手県スキー連盟内
宮城県	022-375-9524	宮城県スキー連盟内
秋田県	018-893-6832	秋田県スキー連盟内
山形県	023-647-5020	山形県スキー連盟内
福島県	0242-62-4504	福島県スキー連盟内
茨城県	029-221-7737	茨城県スキー連盟内
栃木県	028-665-9111	栃木県スキー連盟内
群馬県	027-231-1966	群馬県スキー連盟内
埼玉県	048-853-2710	埼玉県スキー連盟内
千葉県	047-751-2100	千葉県スキー連盟内
東京都	03-3262-2491	一般財団法人東京都スキー連盟内
神奈川県	045-311-8907	公益財団法人神奈川県スキー連盟内
新潟県	0258-82-1680	公益財団法人新潟県スキー連盟内
富山県	076-442-3110	富山県スキー連盟内
石川県	076-273-3543	石川県スキー連盟内
福井県	0779-65-7174	福井県スキー連盟内
山梨県	090-7401-3322	NPO法人山梨県スキー連盟内
長野県	026-264-5888	公益財団法人長野県スキー連盟内
岐阜県	0577-34-3133	岐阜県スキー連盟内
静岡県	054-385-5437	静岡県スキー連盟内
愛知県	052-757-6277	愛知県スキー連盟内
三重県	0593-94-6981	三重県スキー連盟内
滋賀県	077-527-8501	滋賀県スキー連盟内
京都府	075-692-3487	京都府スキー連盟内

大阪府	06-6975-2064	大阪府スキー連盟内
兵庫県	0796-20-3735	兵庫県スキー連盟内
奈良県	0743-67-0760	奈良県スキー連盟内
和歌山県	0736-73-3723	和歌山県スキー連盟内
鳥取県	0859-52-2290	鳥取県スキー連盟内
島根県	090-8998-1110	島根県スキー連盟内
岡山県	086-801-9090	岡山県スキー連盟内
広島県	082-293-3230	広島県スキー連盟内
山口県	083-927-9655	山口県スキー連盟内
徳島県	0883-53-0008	徳島県スキー連盟内
香川県	0875-54-2479	香川県スキー連盟内
愛媛県	0898-24-0676	愛媛県スキー連盟内
高知県	088-841-5261	高知県スキー連盟内
福岡県	092-262-1550	福岡県スキー連盟内
佐賀県	090-5480-9320	佐賀県スキー連盟内
長崎県	0956-34-1716	長崎県スキー連盟内
熊本県	096-324-2595	熊本県スキー連盟内
大分県	0974-22-0110	大分県スキー連盟内
宮崎県	080-1735-6971	宮崎県スキー連盟内
鹿児島県	099-225-1309	休会中
沖縄県	090-1111-2441	沖縄県スキー連盟内

(公社)全日本学生スキー連盟 03-3384-7913

(公財)全国高等学校体育連盟スキー専門部 0269-62-4125

公益財団法人全日本スキー連盟 03-3481-2315

## 個人会員募集

日本スキー指導者協会に団体が加入していない府県の方は、個人会員として当協会の会員になることが出来ます。

会員になられた方には、会報の送付や各種行事のご案内などを差し上げます。お申し込みは事務局におねがいします。

年会費は1,000円となっています。

現在、次の府県の団体は加盟しておりませんので

ご希望の方は、個人会員としてお申し込みください。

◎群馬県、◎新潟県、◎西日本ブロック(=S A Jのブロックに同じ)

S.I.J.のホームページ <http://sij.arts-k.com/> へ是非お越し下さい。



## INSTRUCTOR

日本スキー指導者協会会報(第30号・30周年記念特集) (非売品) 平成26年10月1日発行

編集人 編集委員会 発行人 坂本 祐之輔

印刷所 水戸屋紙工株式会社 発行所 日本スキー指導者協会事務局

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 3-15-5-419

TEL & FAX 03-3374-3855

E-mail [ikie@nifty.com](mailto:ikie@nifty.com)

URL <http://sij.arts-k.com/>